

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 **－**

- ・ロシア、豪州等で減少したものの、アルゼンチン、インド等で増加し、前年度から増加した。史上最高の見込み。

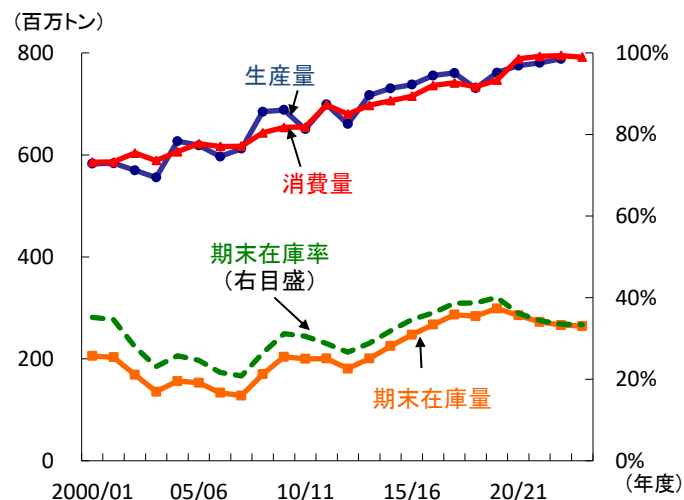
消費量 前年度比  前月比 **－**

- ・EU、中国等で増加したものの、ウクライナ、ロシア等で減少し、前年度から減少した。

輸出量 前年度比  前月比 **－**

- ・アルゼンチン、EU 等で増加したものの、豪州、ウクライナ等で減少し、前年度から減少した。

期末在庫量 前年度比  前月比 **－**



資料：USDA「PS&D」（2023. 5. 12）をもとに農林水産省にて作成

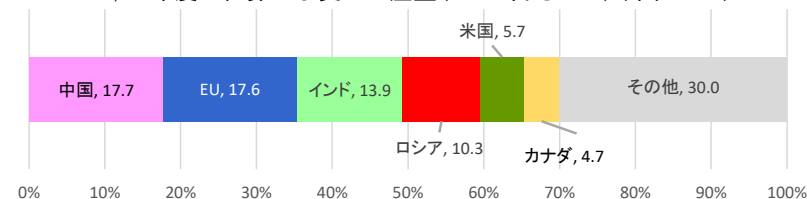
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

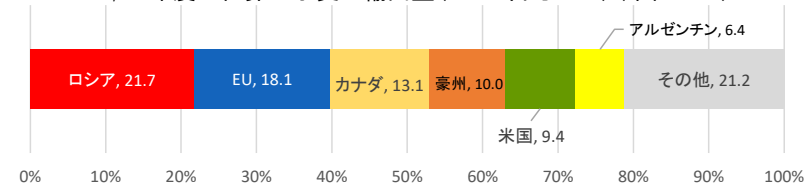
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	780.3	788.3	789.8	－	0.2
消 費 量	793.1	794.7	791.7	－	▲ 0.4
うち飼料用	161.0	156.1	150.9	－	▲ 3.4
輸 出 量	203.0	215.2	209.7	－	▲ 2.6
輸 入 量	199.4	207.2	207.5	－	0.2
期末在庫量	272.7	266.3	264.3	－	▲ 0.7
期末在庫率	34.4%	33.5%	33.4%	－	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 May 2023)

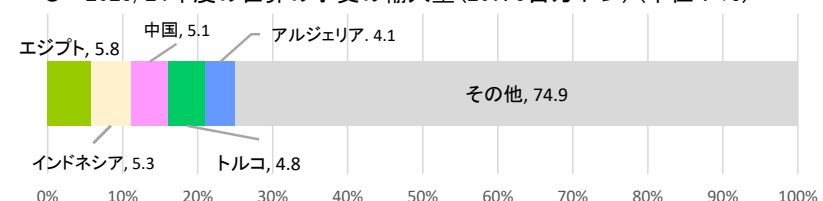
○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(789.8百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(209.7百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(207.5百万トン) (単位：%)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2023/24 年度の生産量は前年度から 0.6%増加の 45.2 百万トン

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の実産量は、過去 5 年平均(48.7 百万トン)を 7.2%下回るものの、前年度に比べ 0.6%増加の 45.2 百万トンの見込み。

同「Crop Production」(2023.5.12)によれば、冬小麦は前年度に比べ 2.4%増加の 30.8 百万トン、春小麦及びデュラム小麦は同 3.4%減少の 14.4 百万トンの見込み。

同「Wheat Outlook」(2023.5.16)によれば、5 月 9 日現在、冬小麦の生産地の 48%が依然として干ばつ状況となっており、主にハード・レッド・ウインター(HRW)への影響が懸念されている。2 年続きの干ばつの影響で単収の低下と耕作放棄が進み、HRW の生産量は 14.0 百万トンと前年度を下回る見込み。なお、冬小麦の作付面積に占める収穫面積の割合は 67%と 1917/18 年度以降最低である。

一方、ソフト・レッド・ウインター(SRW)は、単収は減少したものの、収穫面積の増加により、11.0 百万トンと前年度より増加し 2015/16 年度以降で最高となる見込み。

「Crop Progress」(2023.5.15)によれば、5 月 14 日時点の冬小麦の出穂進捗率は 49%と前年度の 46%、過去 5 年平均の 48%を上回っている。また、作柄評価(やや良い～良)は 29%と前年度(27%)に比べ 2 ポイント増加したものの、干ばつの影響により冬小麦主産地のカンザス州の実産量は 1964/65 年度以降最低の 5.2 百万トンの見込み。なお、今後の降雨が単収を決める重要な要因となる。

また、春小麦の主要生産 6 州の作付進捗率は 40%と前年度(37%)を上回るものの、ノースダコタ州等では融雪による土壌水分過多や残雪により播種作業が進まず、過去 5 年平均(57%)を下回っている。また、出穂進捗率は 13%と前年度同時期(15%)、過去 5 年平均(23%)を下回っている。

【貿易情報・その他】2023/24 年度の輸出量は、国内供給の引き締めと価格が主要輸出国に比べ高いことから、前年度に比べ 6.4%減少の 19.7 百万トン(1972/73 年度以降最低)の見込み。USDA によれば、米国の輸出価格(FOB)は低調な輸出需要から 4 月 5 日時点の 386 ドル/トンから低下し、5 月 9 日時点で 373 ドル/トンとなったものの、主要輸出 6 か国の中では一番高い。

なお、2022/23 年度の輸出は、価格競争力が弱く低調で、2022 年 6 月から 2023 年 3 月の輸出量は 17.9 百万トンで、前年度同時期に比べ 4 %下回っている。また、2023 年 4 月の輸出量は 149.0 万トン(前年度同時期 164.8 万トン)で、輸出先国は、メキシコ(17.4%)、日本(15.4%)、タイ(7.7%)の順。

小麦一米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年6月～24年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	44.8	44.9	45.2	—	0.6
消 費 量	29.6	29.9	30.3	—	1.1
うち飼料用	1.6	1.5	1.9	—	27.3
輸 出 量	21.8	21.1	19.7	—	▲ 6.4
輸 入 量	2.6	3.4	3.7	—	7.9
期末在庫量	19.0	16.3	15.1	—	▲ 7.1
期末在庫率	37.0%	31.9%	30.2%	—	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.01	—	4.5
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.01	—	▲ 3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)

表：米国産冬小麦の品種別生産量の推移(2022/23～2023/24)

(百万トン)			
品 種	2022/23年度	2023/24年度	増加率
ハード・レッド・ウインター	14.5	14.0	-3.1
ソフト・レッド・ウインター	9.2	11.0	20.6
ハード・ホワイト・ウインター	0.3	0.3	-4.3
ソフト・ホワイト・ウインター	6.1	5.4	-11.3
冬小麦計	30.0	30.8	2.4

資料：USDA 「Crop Production」(2023.5.12)をもとに農林水産省で作成

図：米国産小麦の輸出量と輸出先国

2023年 (2023年4月)				2022年 (2022年1月～12月)				2021年 (2021年1月～12月)			
国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア	
メキシコ	25.9	17.4	メキシコ	376.3	19.0	メキシコ	740.4	17.7			
日本	22.9	15.4	フィリピン	228.4	11.5	フィリピン	505.2	12.1			
タイ	11.5	7.7	日本	212.2	10.7	日本	435.1	10.4			
エチオピア	10.8	7.2	韓国	122.1	6.2	韓国	293.3	7.0			
ケニア	9.5	6.4	ナイジェリア	117.3	5.9	中国	289.9	6.9			
フィリピン	5.8	3.9	台湾	82.1	4.1	ナイジェリア	272.0	6.5			
エジプト	5.5	3.7	イエメン	70.8	3.6	台湾	178.7	4.3			
その他	57.1	38.3	その他	775.2	39.1	その他	1,476.6	35.2			
計	149.0	100.0	計	1,984.4	100.0	計	4,191.2	100.0			

資料：USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2023/24 年度の春小麦の播種は5月に入り進展

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2023.5.23)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、平年並みの天候となれば、他の穀物からのシフトによる播種面積の増加から、前月予測から 1.4 百万トン上方修正され 35.8 百万トン(前年度比 5.7%増加、過去 5 年平均比 14.2%増)の見込み。品種別の生産量は、普通小麦が 29.9 百万トン(前年度比 5.5%増)、デュラム小麦が 5.8 百万トン(同 6.9%増)と、前年度に比べそれぞれ増加。

播種面積は、普通小麦がオーツ麦等からの作付けのシフトで 8.46 百万ヘクタール(前年度比 7.9%増)、デュラム小麦が 2.45 百万ヘクタール(同 0.9%増加)と、それぞれ前年度に比べ増加。

普通小麦のうち、①春小麦の播種面積は 7.85 百万ヘクタール(前年度比 7.5%増)と増加し、州別には、最大生産州のサスカチュワン州(0.34 百万ヘクタール増)での増加が大きい。②主に飼料用途の冬小麦は、前年度に比べ 0.61 百万ヘクタール(同 13%増)と増加した。

カナダ各州政府によれば、①寒冷な天候で春穀物の播種進捗率が 38%(過去 5 年平均 53%)と遅れていたサスカチュワン州では、5 月中旬に播種が進み、小麦の播種進捗率は春小麦が 43%、デュラム小麦が 38%となった。②マニトバ州では、温暖な天候に恵まれているものの、春穀物の播種進捗率は 25%と過去 5 年平均(63%)を下回っている。なお、一部の早播きの小麦は発芽が進んでいる。③アルバータ州では、低温により播種作業が遅れていたものの、5 月中旬の気温上昇で播種が進展し、春小麦の播種進捗率は、38%となり前年同時期(26%)を上回った。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され 24.8 百万トン(前年度比 1.2%増)の見込みで、普通小麦が 20.0 百万トン(前年度比 1.8%増)、デュラム小麦が 4.8 百万トン(同 1.0%減)の見込み。デュラム小麦は、欧州、米国からの需要が減少するものの、乾燥天候により生産量が減少する北アフリカからの需要が増加する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量の増加に加え、豪州の減産見通しによるアジア市場での競合の減少により需要増、特に中国向けが増加することから、史上最高の 27.5 百万トンの見込み。カナダ産小麦は、豪州産のシェアが高いインドネシア市場向けの輸出も増加する見込み。

また、AAFC によれば、2022/23 年度の小麦全体の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度に比べ 62.3%増加の 24.5 百万トン。

小麦一カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	22.4	33.8	37.0 (35.8)	—	9.4
消 費 量	10.2	9.6	9.6 (9.3)	—	0.5
うち飼料用	5.2	4.5	4.5 (4.9)	—	—
輸 出 量	15.1	26.0	27.5 (24.8)	—	5.8
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	—	—
期末在庫量	3.7	2.5	3.0 (5.8)	—	19.7
期末在庫率	14.5%	7.1%	8.2% (17.0%)	—	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.20	10.08	10.60 (10.70)	—	5.2
単収(t/ha)	2.44	3.35	3.49 (3.34)	—	4.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(23 May 2023)

表 カナダ産小麦の生産量、収穫面積、単収の推移

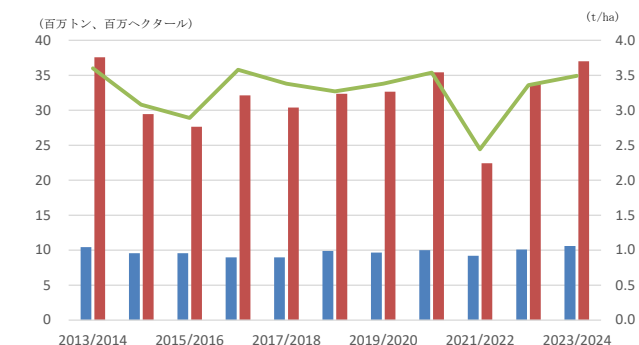
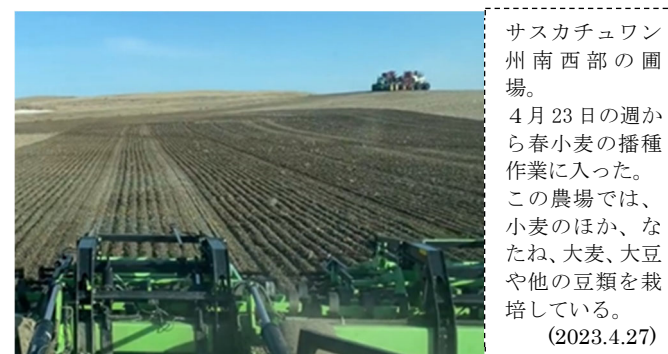


写真 カナダ産小麦の播種 (サスカチュワン州 2023. 4. 27)



サスカチュワン州南西部の圃場。
4月23日の週から春小麦の播種作業に入った。
この農場では、小麦のほか、なたね、大麦、大豆や他の豆類を栽培している。
(2023.4.27)

＜ 豪州 ＞2023/24 年度の生産量は前年度比 25.6%減の 29.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、収穫面積の減少と単収の低下から史上最高であった前年度に比べ 25.6%減少の 29.0 百万トン(過去 5 年平均 27.8 百万トン)の見込み。

2022 年に記録的な降雨で豊作をもたらしたラニーニャ現象が終息し、仮にエルニーニョが発生し、乾燥天候となれば、単収が低下し、生産量が減少すると見られている。なお、豪州気象局による今後の 3 か月予報によれば、豪州の大部分で降水量は過去の中央値を下回る可能性が高い。

USDA によれば、4 月に豪州南部と西部の生産地で、にわか雨により播種前の土壌水分が供給された。一方、東部の生産地では、乾燥天候となり播種は進んでいるが、深層の土壌水分は 3 月の降雨により平均近くの水準を保っている中、表層の土壌水分はこの乾燥天候で減少した。

生育状況は、4 月より播種が開始され、生産地全域の播種進捗率は 60%以上となった。産地別の播種状況は、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)では土壌水分も高く播種は順調。土壌水分が少なかったサウスオーストラリア州(SA 州)等の一部では、播種を遅らせ、生育期間が比較的短い早生品種への切り替えが実施されている。

GIWA(ウェスタンオーストラリア州穀物団体)(2023.5.19)によれば、播種前の降雨により土壌水分が供給された地域を中心に、播種は例年よりも早く 5 月に終了する見込み。菜種等からのシフトが見込まれるものの、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)北部で乾燥状態の継続や、さらに南部の降雨量の少なさから放牧地や休閑地の増加が見込まれ、小麦の播種面積は、4.39 百万ヘクタールと前年度から減少する見込み。なお、今後の降雨によっては、播種面積の増加の可能性もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、国内消費量はほぼ変わらない中、生産量が約 26%も減少することから、前年度に比べ、32.3%減少の 21.0 百万トンの見込み。

豪州産の輸出先は、東アジアと東南アジア諸国であるものの、豪州の輸出量の減少により、豪州の伝統的な市場であったインドネシア、タイ、ベトナム等では、豪州産から生産量の回復したアルゼンチン産にシフトすると見られる。

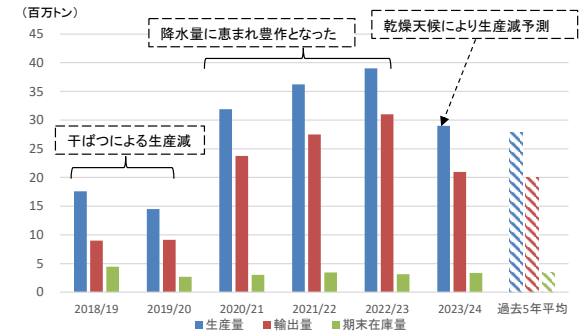
なお、2022/23 年度の実輸出量は、中国やアジア諸国の需要が強く、前月予測から 2.5 百万トン上方修正され、31.0 百万となる見込み。2023 年 3 月の輸出量は 378.9 万トンと前年度同期を 52.6%上回る。輸出先国は、中国(30.0%)、ベトナム(10.2%)、インドネシア(8.7%)の順で、アジア向けが多い。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年10年～24年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	36.2	39.0	29.0 (27.9)	—	▲ 25.6
消 費 量	8.5	8.5	8.0 (8.4)	—	▲ 5.9
うち飼料用	5.0	5.0	4.5 (4.7)	—	▲ 10.0
輸 出 量	27.5	31.0	21.0 (21.5)	—	▲ 32.3
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	—	—
期末在庫量	3.5	3.2	3.4 (2.2)	—	6.3
期末在庫率	9.6%	8.0%	11.6% (7.5%)	—	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.73	13.00	12.50 (12.40)	—	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.85	3.00	2.32 (2.25)	—	▲ 22.7
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 IGC 「World Agricultural Production」(12 May 2023) 「Grain Market Report」(20 April 2023)					

図：豪州の生産量、輸出量、期末在庫量の推移



資料:USDA「PS&D」(2023.5.12)をもとに農林水産省で作成

図：豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2023年3月			2023年1月～2023年3月			2022年1月～2022年3月		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	113.6	30.0	中国	278.5	27.6	中国	145.0	18.5
ベトナム	38.7	10.2	インドネシア	108.3	10.7	インドネシア	111.3	14.2
インドネシア	33.0	8.7	ベトナム	90.2	8.9	フィリピン	100.5	12.8
タイ	32.8	8.7	韓国	83.5	8.3	ベトナム	69.9	8.9
フィリピン	30.3	8.0	フィリピン	82.8	8.2	韓国	53.5	6.8
韓国	28.1	7.4	タイ	78.0	7.7	イエメン	37.0	4.7
その他	102.4	27.0	その他	287.2	28.5	その他	267.5	34.1
計	378.9	100.0	計	1008.5	100.0	計	784.7	100.0

資料:豪州統計局

< EU27 > 2023/24 年度の生産量 (USDA) は前年度比 3.5%増加の 139.0 百万トン

【生育・生産状況】欧州委員会(2023.4.27)によれば 2023/24 年度の EU27 の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 4.0%増加の 139.5 百万トンの見込み。そのうち、普通小麦は同 3.9%増加の 131.9 百万トン、デュラム小麦は同 5.5%増加の 7.5 百万トンの見込み。前年度に比べると、普通小麦はドイツ、ベルギー等で減少したものの、ハンガリー、ルーマニアで増加、デュラム小麦はフランス、ドイツ等で減少するものの、イタリア、ギリシャ、スペイン等で増加する見込み。

各国の生育状況は、欧州の大部分で4月中旬から5月上旬にかけ降雨に恵まれ、フランス、ドイツ、ポーランドでは生育状況は良好である。イタリアでは降雨があり干ばつが緩和され、生育状況は比較的良好であるが、一部で洪水が生じている。一方、ポルトガル、スペインでは局所的な降雨はあったものの、乾燥状態の悪化と平年より高い気温で冬小麦の生育に悪影響を及ぼしている。なお、フランスアグリメールによれば、小麦の生育状況の評価を示す「とても良い」「良い」の状態は、5月15日時点で、普通小麦は93%(前年度同期75%)、デュラム小麦は87%(同73%)と前年度を上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前年度に比べ1.9%減少の109.5百万トン。そのうち、飼料用消費は期首在庫量及び生産量の増加から、前年度に比べ3.4%増加の45.0百万トンの見込み。2023/24年度の輸入量は、小麦及び他の飼料用穀物の生産量の増加による輸入需要の減少により、前年度に比べ33.3%減少の7.0百万トンの見込み。特にウクライナからの輸入が減少する見込み。

2023/24年度の輸出量は、主要輸出国のフランスやルーマニアでの生産量の増加や、ウクライナからの輸出が減少することに伴い、前年度に比べ10.1%増加の38.0百万トンの見込み。

2022/23年度の輸出量は、低調な輸出ペースから、前月予測から0.5百万トン下方修正され34.5百万トン。欧州委員会によれば、2023年2月の輸出量は197.8万トン。輸出先国は、普通小麦がモロッコ(17.4%)、アルジェリア(16.8%)の順で、北アフリカ諸国向けが多い。また、デュラム小麦は、チュニジア(37.4%)、アラブ首長国連邦(29.8%)の順で、中東、アフリカ向けが多い。

ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題について、欧州委員会は、4月28日、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアでのウクライナ産穀物の過剰供給を緩和するために、暫定的に5月2日～6月5日までウクライナ産小麦、とうもろこし、菜種、ひまわりの種子の輸入に規制を設定した。同時に、ハンガリー等5か国は各国の単独措置での輸入規制の解除を表明した。

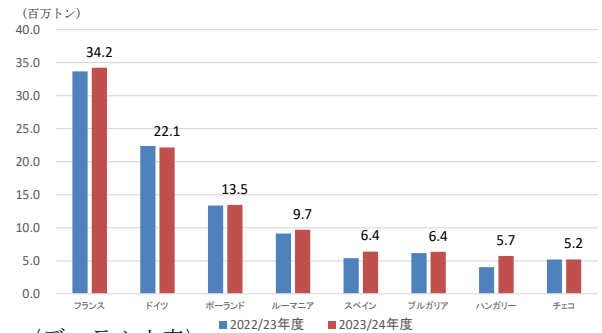
小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

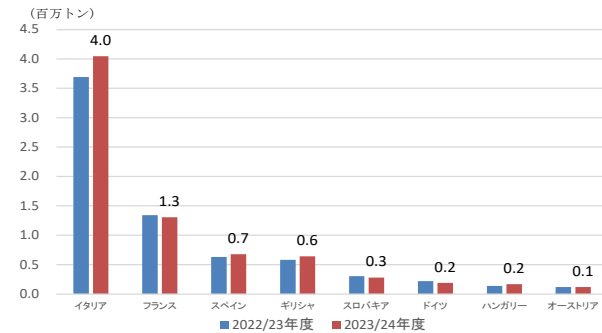
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	138.2	134.3	139.0	(137.8)	—	3.5
消 費 量	108.3	107.5	109.5	(107.7)	—	1.9
うち飼料用	45.0	43.5	45.0	(43.0)	—	3.4
輸 出 量	32.0	34.5	38.0	(36.0)	—	10.1
輸 入 量	4.6	10.5	7.0	(5.4)	—	▲ 33.3
期末在庫量	13.3	16.2	14.7	(17.4)	—	▲ 9.3
期末在庫率	9.5%	11.4%	9.9%	(12.1%)	—	▲ 1.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.28	24.35	24.43	(24.10)	—	0.3
単収(t/ha)	5.69	5.52	5.69	(5.72)	—	3.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

図 EU27 の普通小麦及びデュラム小麦の生産量の推移
(普通小麦)



<デュラム小麦>



資料：EU 委員会 Cereals Production, Area, and Yield(2023. 4. 27)を
もとに農林水産省で作成

< 中国 > 2023/24 年度の生産量は、史上最高の 140.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前年度に比べ 1.7%増加の 140.0 百万トンと史上最高となる見込み。

生産コストは増加しているものの、価格水準が高く、高い収益性が見込まれることから、作付意欲が高まっている。なお、中国の小麦生産量の 25%を占める河南省の調査によれば、2022/23 年度のヘクタール当たりの種子、農薬、肥料等の投入コストは、18%上昇している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 3 月号」によれば、気温が平年を上回り、生産地のほとんどの地域で降水量は十分で生育に適した天候となっている。このため、冬小麦の生育は全体的に良好である。生育段階は、北部のほとんどの冬小麦は再生長期にあり、江淮、江漢地域は徐々に穂孕み期に入っている。また、中国南西部は開花期に入っている。3 月下旬の全国の冬小麦の一類苗と二類苗(※)の割合は 89.4%に達し、生育状況は前年度及び平年を上回っている。例年、収穫は 5 月中旬に開始され、6 月末に終了する。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前年度に比べ 0.7%増加の 149.0 百万トンの見込み。食用用途等が前年度に比べ 1.7%増加の 117.0 百万トン。飼料用途は、相対的に価格が低下した他の飼料用穀物への需要のシフトから、前年度に比べ 3.0%減少の 32.0 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸入量は、①生産量の増加、②とうもろこし等へのシフトによる飼料用需要の減少(豪州産飼料用小麦の輸入量の減少)から、前年度に比べ 22.2%減少の 10.5 百万トンの見込み。

また、2022/23 年度の輸入量は、前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、13.5 百万トンと、1992/93 年度以降最高となる見込み。2022 年 7 月から 2023 年 3 月までの輸入量は、9.5 百万トンを超え、輸入先国のシェアは豪州 55%、カナダ 22%となった。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 3 月号」によれば、小麦は 3 月に国内市場へ十分に供給された一方、小麦粉やふすまの販売価格が下落して製粉企業の需要は減少したため、今後の国内の小麦価格は低下するとみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前年度に比べ、0.4%増加し 139.7 百万トンの見込みで、世界の期末在庫量に占める中国の割合は、52.8%と半分を超える。

※一類苗は生育が正常で元気に成長している苗。二類苗は通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.0	137.7	140.0 (139.0)	—	1.7
消費量	148.0	148.0	149.0 (141.3)	—	0.7
うち飼料用	35.0	33.0	32.0 (25.0)	—	▲ 3.0
輸 出 量	0.9	0.9	0.9 (1.1)	—	—
輸 入 量	9.6	13.5	10.5 (6.7)	—	▲ 22.2
期末在庫量	136.8	139.1	139.7 (143.0)	—	0.4
期末在庫率	91.9%	93.4%	93.2% (100.4%)	—	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.60 (23.70)	—	0.3
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.93 (0.00)	—	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)

IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

図 中国産小麦の生産量の推移

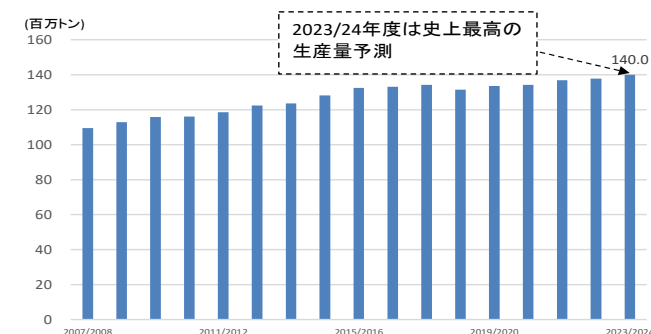
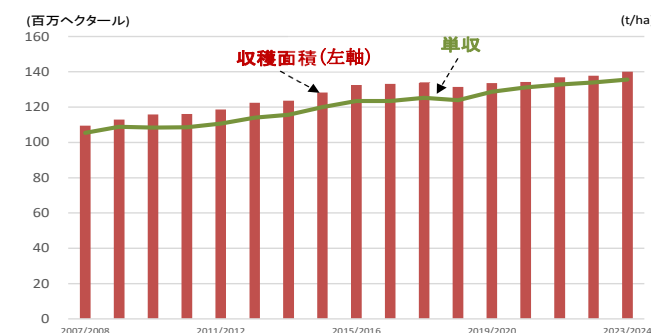


図 中国産の小麦の収穫面積と単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2023.5.12)をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2023/24 年度の輸出量は史上最高の 45.5 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、収穫面積の減少と単収の低下から、史上最高の前年度に比べ 11.4%減少の 81.5 百万トン(過去 5 年平均 79.6 百万トン、2.4%)の見込み。作期別生産量は、冬小麦は播種期の降雨過多による収穫面積の減少から、前年度に比べ 14.7%減少の 58.0 百万トン、春小麦も収穫面積の減少から同 2.1%減少の 23.5 百万トン。

ロシア農業省によれば、5 月 12 日時点で、春小麦の播種面積は 5.33 百万ヘクタール(前年度同期比 37.7%増)で、前年度を上回る播種進捗率(41.0%、前年度同期 29.7%)となっている。

ロシア気象センターによれば、生育状況は、①ヨーロッパ部北部の中央連邦管区等では、冬小麦は分げつ期から茎たち期。作柄は良好から並みだが、一部で越冬期の表層の水結から不良。4 月上旬に春小麦の播種が開始。②同南部の南連邦管区等では、冬小麦は茎たち期。作柄は良好で、一部並み。春小麦は出芽期から子葉形成期。③アジア部のウラル連邦管区では、順調な越冬期終盤を迎えている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量は減少するものの、前年度の史上最高の生産量から期首在庫量が豊富なことや、ウクライナの輸出余力の減少から、史上最高の 45.5 百万トン。同年度の世界の小麦輸出量に占めるロシアのシェアは 21.7%と世界第 1 位の見込み。

2022/23 年度の輸出量は、穀物年度末に向け、輸出量ペースが減速すると見られることから、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度に比べ 34.8%増加の 44.5 百万トンの見込み。

現地情報会社によれば、旧来の輸出先である中東、アフリカ諸国向けの輸出量は、ウクライナ侵攻前後の比較では、国ごとで増減があるものの大きな変化はみられない。国別では、当初減少していたトルコ向けの輸出が 2022 年 10 月から増加している。また、2023 年 4 月の輸出量は、前月に比べ 8.2%減少するものの、同月の過去 3 年平均(196.7 万トン)を上回る 429.5 万トンと水準は高い。輸出先国は、トルコ(27.7%)、イラン(12.9%)、エジプト(10.5%)の順。

USDA によれば、ロシア産小麦の輸出価格(FOB)は、播種の順調な進展等から、4 月 5 日時点の 275 ドル/トンから低下し 260 ドル/トンと主要小麦輸出国の中で最低である(最高は米国の 373 ドル/トン)。

現地情報会社によれば、4 月は、豊富な在庫量や高水準な輸出関税のため、国内取引価格が生産コスト以下となる場合が多数あった。今後、この状況が継続すると、生産者の売渡が減少し、7 月～8 月には輸出量ペースが伸び悩む可能性もある。

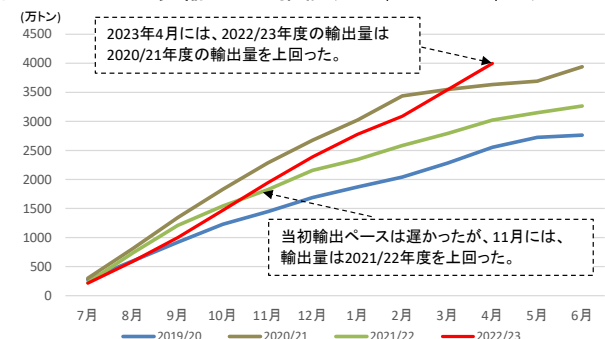
小麦一口ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位: 百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	75.2	92.0	81.5 (83.6)	—	▲ 11.4
消 費 量	41.8	42.3	41.0 (46.3)	—	▲ 3.0
うち飼料用	18.5	19.0	18.0 (21.0)	—	▲ 5.3
輸 出 量	33.0	44.5	45.5 (42.2)	—	2.2
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.2)	—	—
期末在庫量	12.1	17.6	12.9 (11.8)	—	▲ 26.6
期末在庫率	16.2%	20.3%	15.0% (13.4%)	—	▲ 5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	27.50 (27.79)	—	▲ 5.2
単収(t/ha)	2.72	3.17	2.96 (3.01)	—	▲ 6.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

図：ロシアの小麦輸出量の推移(2019/20～2022/23)



資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

表：ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2022/23年度 (2023年4月)			2022/23年度 (2022年7月～2023年4月)			2021/22年度 (2021年7月～2022年1月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
トルコ	118.9	27.7	トルコ	748.6	18.8	トルコ	648.9	21.5
イラン	55.3	12.9	エジプト	688.6	17.3	イラン	552.7	18.3
エジプト	45.2	10.5	カザフスタン	270.2	6.8	エジプト	475.2	15.7
アルジェリア	27.0	6.3	サウジアラビア	231.8	5.8	カザフスタン	217.3	7.2
サウジアラビア	26.8	6.2	イラン	230.0	5.8	アゼルバイジャン	157.6	5.2
カザフスタン	24.0	5.6	アゼルバイジャン	190.5	4.8	サウジアラビア	91.6	3.0
イスラエル	15.0	3.5	パキスタン	175.2	4.4	スーダン	65.1	2.2
その他	117.3	27.3	その他	1,451.4	36.4	その他	813.6	26.9
計	429.5	100.0	計	3,986.3	100.0	計	3,022.0	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の生産量は5年平均を 38.2%下回る

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量(クリミア地域分を含む)は、収穫面積の減少と単収の低下から、前年度に比べ21.1%減少の16.5百万トン(過去5年平均26.7百万トン、38.2%減)。

なお、ウクライナ農業政策食料省2023年度第1回生産見通し(2023.3.21)によれば、2023/24年度の生産量は前年度(20.5百万トン)から減少し、16.6百万トンの見込み。5月18日時点の春小麦の播種面積は0.29百万ヘクタール(前年度比31.8%増)で、播種進捗率は89.7%となっている。

4月の気温は平年並み。土壌水分は一部で水分過多となったものの、十分な降雨により良好であった。生育段階は、冬小麦は分けつ期から節間伸長期初期。作柄は概ね良好であるが、一部では土壌水分過多の影響により葉の黄変が発生。また、春小麦は出芽期から子葉形成期。作柄は並みから良好。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、ロシアのウクライナ侵攻による港湾の閉鎖や2013/14年度以降で最低の生産量から、前年度に比べ、33.3%減少の10.0百万トンの見込み。

また、2022/23年度の輸出量は、陸路とEUの港湾を利用した「連帯レーン」と「黒海穀物イニシアチブ」による輸出から、前月予測から0.5百万トン上方修正され、15.0百万トンの見込み。ロシアの侵攻の影響を受けたものの、前年度に比べ20.2%の減少に留まっている。

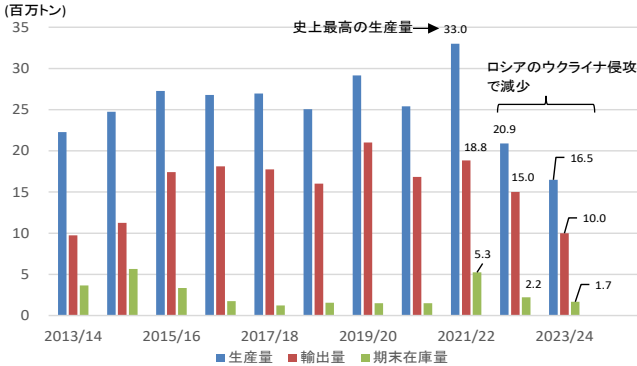
ウクライナ政府等によれば、2022/23年度のうち2022年7月～2023年4月のウクライナの小麦の輸出量は1,440.5万トン(海上輸送、陸路等での全ての輸出が含まれる)。また、輸出先国は、トルコ(21.3%)、ルーマニア(16.3%)、スペイン(14.7%)の順。ロシアのウクライナ侵攻後、ルーマニア、スペイン、ポーランド等の一部のEU諸国向けが増加した。また、黒海穀物イニシアチブ「国連共同調整センター」によれば、合意に基づく2022年8月から2023年4月までの黒海港湾からの小麦輸出量は802.8万トンで、輸出先国は、スペイン(24.0%)、トルコ(17.1%)、バングラデシュ(10.6%)の順。

なお、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意は、2023年3月19日に60日間の再延長がされ、その期限の5月17日に再び60日間の延長(7月中旬まで)が合意。また、ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題について、欧州委員会は、4月28日、ポーランド等5か国に、暫定的に5月2日から6月5日までウクライナ産小麦等の輸入規制(トランジットは除く)を設定。また、トルコは5月から小麦等の穀物に対して130%の関税を賦課するとした。ウクライナのトルコ向け小麦輸出量の比率が高いため、影響が出る可能性がある。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）
(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	33.0	20.9	16.5 (20.2)	—	▲ 21.1
消 費 量	10.5	9.0	7.1 (11.6)	—	▲ 21.1
うち飼料用	4.5	4.0	2.5 (2.6)	—	▲ 37.5
輸 出 量	18.8	15.0	10.0 (11.5)	—	▲ 33.3
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	—	▲ 25.0
期末在庫量	5.3	2.2	1.7 (1.7)	—	▲ 24.1
期末在庫率	18.0%	9.3%	9.9% (7.3%)	—	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.41	5.30	4.30 (5.65)	—	▲ 18.9
単収(t/ha)	4.45	3.94	3.84 (3.57)	—	▲ 2.5
資料: USDA	「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、				
	「World Agricultural Production」(12 May 2023)				
IGC	「Grain Market Report」(20 April 2023)				

図:ウクライナの小麦生産量、輸出量の推移



資料:USDA「PS&D」(2023.5.12)をもとに農林水産省で作成

表：ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2022/23年度 (2023年4月)			2022/23年度 (2022年7月～2023年4月)			2021/22年度 (2021年7月～2022年2月※)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
トルコ	48.6	34.7	トルコ	307.2	21.3	エジプト	273.8	15.1
スペイン	29.3	20.9	ルーマニア	234.2	16.3	インドネシア	265.5	14.7
ルーマニア	18.2	13.0	スペイン	211.9	14.7	トルコ	178.7	9.9
バングラデシュ	14.4	10.3	バングラデシュ	87.6	6.1	パキスタン	146.9	8.1
エジプト	4.7	3.4	ポーランド	87.6	6.1	サウジアラビア	75.1	4.1
イタリア	4.1	2.9	イタリア	51.7	3.6	イエメン	64.7	3.6
レバノン	3.6	2.6	エジプト	50.4	3.5	バングラデシュ	63.2	3.5
その他	17.2	12.3	その他	409.9	28.5	その他	743.4	41.0
計	140.1	100.0	計	1,440.5	100.0	計	1,811.3	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成
※2022年3月から2022年6月までの輸出データはロシアのウクライナ侵攻により不明

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 **—**

・ウクライナ等で減少も、米国、アルゼンチン、EU、中国等で増加し、前年度を上回る見込み。

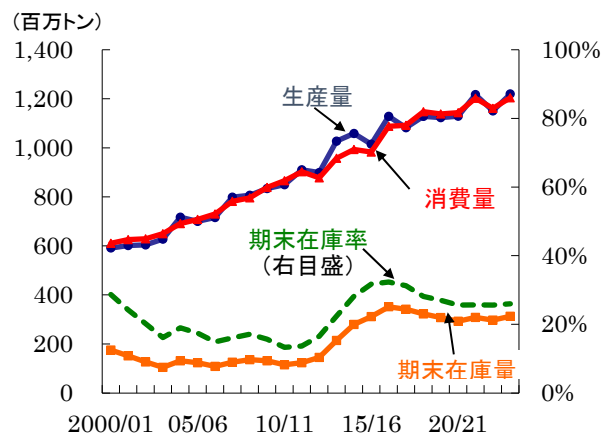
消費量 前年度比  前月比 **—**

・ウクライナ等で減少も、米国、中国、ブラジル等で増加し、前年度を上回る見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **—**

・ウクライナ等で減少も、アルゼンチン、米国、ブラジル等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 **—**



資料：USDA「PS&D」(2023. 5. 12)をもとに農林水産省にて作成

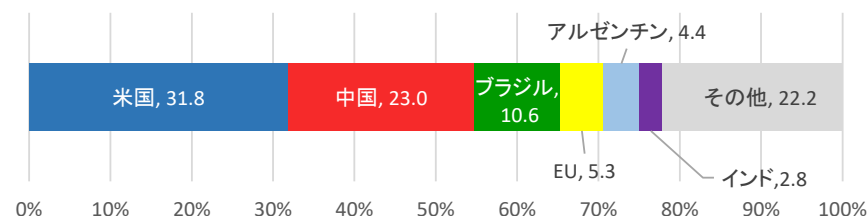
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

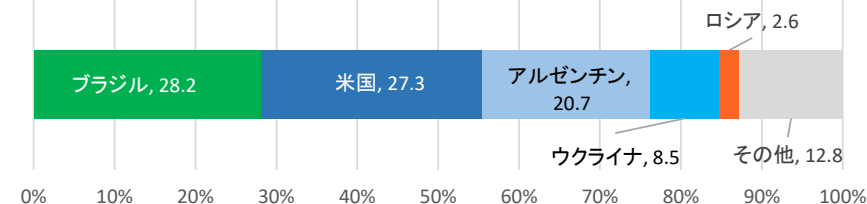
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,217.3	1,150.2	1,219.6	—	6.0
消費量	1,202.1	1,160.9	1,204.1	—	3.7
うち飼料用	746.6	730.5	758.6	—	3.9
輸出量	206.2	175.4	195.3	—	11.3
輸入量	184.5	175.4	184.5	—	5.2
期末在庫量	308.2	297.4	312.9	—	5.2
期末在庫率	25.6%	25.6%	26.0%	—	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 May 2023)

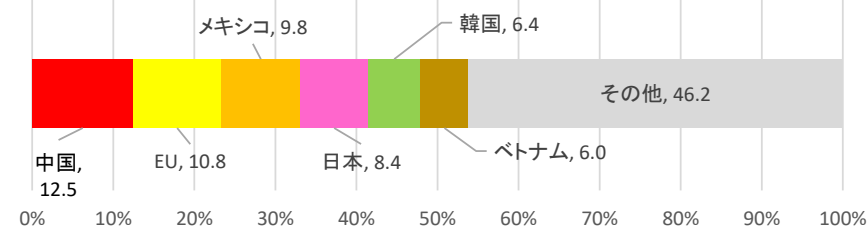
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,219.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(195.3 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(184.5 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 2023/24 年度の生産量は 11.2%増で史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、単収及び収穫面積が増加することから、前年度より 11.2%増の 387.8 百万トンで史上最高の見通し。

USDA「Crop Progress」（2023.5.15）によれば、適度な降雨があり、5 月 14 日現在で作付け進捗率は 65%となっており、前年度同期（45%）、過去 5 年平均（59%）を上回っている。発芽率も 30%となっており、前年度同期（13%）、過去 5 年平均（25%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、飼料用及びエタノール用等の需要の増加により前年度に比べ 3.6%増の 314.6 百万トンの見通し。飼料用の消費量については、価格低下に伴う需要増により、前年度に比べ 7.1%増の 143.5 百万トンの見込み。エタノール用等の消費量については、自動車用のガソリン消費及びガソリンへのエタノール混合率が増加するとの予想から、前年度より 1.0%増の 134.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、増産に伴う国際的なとうもろこし価格の低下による回復期待から、前年度より 18.3%増の 53.3 百万トンの見込み。2023/24 年度の世界最大の輸入国になると見込まれる中国への輸出を巡って、ブラジル産、ウクライナ産との輸出競争が激化する見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.5.12）によれば、本年 5 月の輸出価格については、ブラジルの増産による価格低下により、主要な輸出国で大幅に低下した。米国の価格については、主要輸出先の需要が低調なことや、中国向け輸出成約のキャンセル等で、米国产への需要が弱まり、低下傾向で推移している。なお、2023 年輸出量（1 月 1 日～5 月 4 日）は 15.1 百万トンで、内訳はメキシコ（5.2 百万トン）、日本（3.1 百万トン）、中国（1.7 百万トン）の順である。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、生産量が大幅に増加することから、前年度より 56.8%増の 56.4 百万トンの見込み。期末在庫率は 15.3%で、前年度より上昇し、2018/19 年度（15.5%）以来の高水準となる見込み。

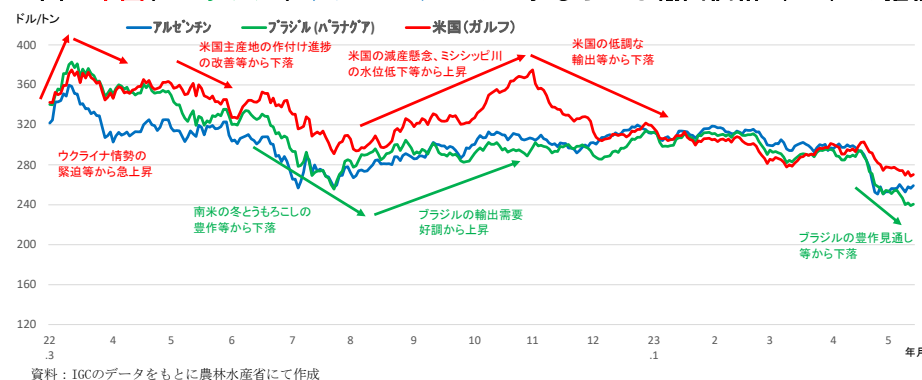
とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	382.9	348.8	387.8	—	11.2
消 費 量	317.1	303.7	314.6	—	3.6
うち飼料用	145.3	134.0	143.5	—	7.1
エタノール用等	135.3	133.4	134.6	—	1.0
輸 出 量	62.8	45.1	53.3	—	18.3
輸 入 量	0.6	1.0	0.6	—	▲ 37.3
期末在庫量	35.0	36.0	56.4	—	56.8
期末在庫率	9.2%	10.3%	15.3%	—	5.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.53	32.05	34.03	—	6.2
単収(t/ha)	11.09	10.88	11.39	—	4.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 May 2023）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



＜ ブラジル ＞ 2023/24 年度の生産量は引き続き高水準の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の実生産量は、129.0 百万トンと史上最高の前年度より 0.8%減少するものの、引き続き高水準を維持する見通し。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) 農業モニタリング月報 (2023.4.27) によれば、2022/23 年度の夏とうもろこしについては、リオ・グランデ・ド・スール州等の主要生産地域で 4 月 1 日から 21 日にかけて降水量が少なかったため、収穫作業が順調に進展した。

冬とうもろこしについては、3 月～5 月の降雨が重要とされており、主要生産州であるマト・グロッソ州、パラナ州では降雨に恵まれ、作柄は良い。今後、5 月後半以降の成熟期に向けた降雨を注視する必要がある。

CONAB 月例報告 (2023.5.11) によれば、収穫中の 2022/23 年度の夏とうもろこしの生産量は、前年度比 8.1%増の 27.0 百万トンの見込み。大豆収穫後の 2 月以降に作付けされた冬とうもろこしの生産量は、前年度比 11.8%増の 98.5 百万トンの見込み。夏作・冬作の合計では前年度比 10.4%増の 125.5 百万トンで史上最高の見込み。(P.23 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、加工用及び飼料用需要の増加等から、前年度より 3.4%増の 76.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前年度から引き続き高水準の実生産量と安価な輸出価格から、前年度より 3.8%増の 55.0 百万トンで史上最高となり、2 年連続で世界第 1 位の輸出国となる見込み (右図参照)。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1～4 月の輸出量は 10.3 百万トンで、前年同期 (4.2 百万トン) と比べ 2.5 倍となっている。内訳は、1 位が日本 1.8 百万トン、2 位が韓国 1.2 百万トン、3 位が中国 1.1 百万トンの順。前年 11 月末以降開始された中国向け輸出は、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てくる本年後半以降、冬とうもろこしの収穫を受け本格化するとみられる。

とうもろこしーブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割)

(単位: 百万トン)

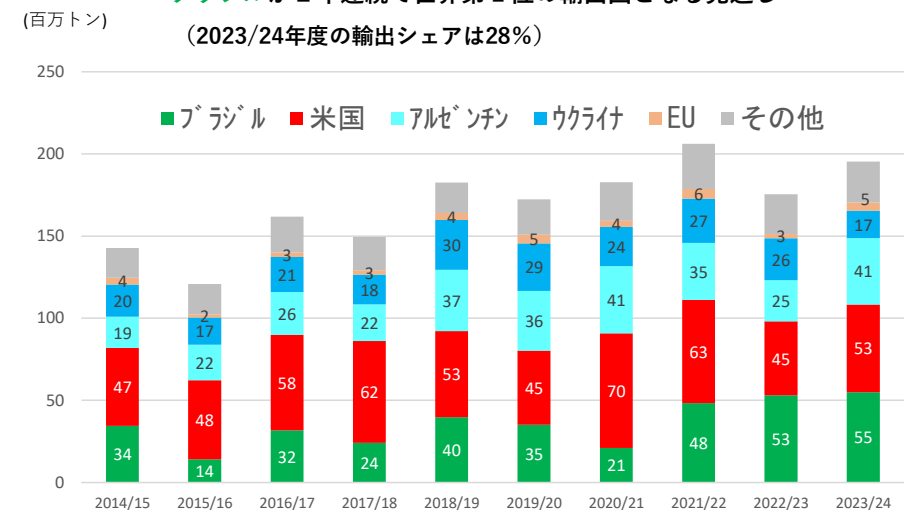
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	116.0	130.0	129.0 (127.0)	—	▲ 0.8	
消 費 量	70.5	74.0	76.5 (79.1)	—	3.4	
うち飼料用	59.5	61.5	62.5 (54.3)	—	1.6	
輸 出 量	48.3	53.0	55.0 (49.0)	—	3.8	
輸 入 量	2.6	1.0	1.2 (0.5)	—	20.0	
期末在庫量	4.0	8.0	6.7 (4.1)	—	▲ 16.3	
期末在庫率	3.3%	6.3%	5.1% (3.2%)	—	▲ 1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	21.80	22.70	22.90 (22.40)	—	0.9	
単収(t/ha)	5.32	5.73	5.63 (5.67)	—	▲ 1.7	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

ブラジルが 2 年連続で世界第 1 位の輸出国となる見通し

(2023/24 年度の輸出シェアは 28%)



資料: USDA 「PS&D」 (2023. 5. 12) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の実産量は、平年並みの天候になるとの見通しから、高温・乾燥により生産量が激減した前年度から 45.9%増の 54.0 百万トンで史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2023.5.18）によれば、2022/23 年度の実収進捗率は 25%であり、前年同期（27%）より遅れている。生産量は、ブエノスアイレス州等主産地で長引く乾燥の影響で 36.0 百万トンとなり、過去 5 年平均（51.0 百万トン）を 29%下回る見込み。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用消費が増加することから、前年度より 12.5%増の 13.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が回復し、輸出量も回復する見通しから、前年度より 62.0%増の 40.5 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～3 月の輸出量は 4.7 百万トンで、前年同期（6.8 百万トン）と比較し、2022/23 年度産が減産したため 30.9%減。内訳は、1 位がペルー 62.2 万トン、2 位がアルジェリア 56.0 万トン、3 位がマレーシア 55.7 万トンの順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧水産大臣は、とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定することを表明。2023 年 5 月中旬現在、とうもろこしの輸出上限数量は 2021/22 年度 36 百万トン、2022/23 年度 20 百万トンに設定されている。

なお、アルゼンチン政府は、今般の干ばつ対策として、農業関係者に対し、融資や減税、割引手形を発行するなどの救済施策を公表した。しかし、農業者から救済措置が不十分という抗議活動があったため、4 月 10 日には、各種税の支払い猶予措置などの救済施策を公表した。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	49.5	37.0	54.0 (61.0)	—	45.9
消 費 量	14.5	12.0	13.5 (20.4)	—	12.5
うち飼料用	10.5	8.0	9.3 (15.5)	—	16.3
輸 出 量	34.7	25.0	40.5 (40.9)	—	62.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.4)	—	—
期末在庫量	1.5	1.5	1.5 (2.2)	—	0.7
期末在庫率	3.0%	4.1%	2.8% (3.6%)	—	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	6.70	7.00 (8.20)	—	4.5
単収(t/ha)	6.97	5.52	7.71 (7.44)	—	39.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

写真：北部サンタフェ州の早植えとうもろこしの圃場風景 (5月1日撮影)

2022 年末から 2023 年初めにかけて作付けされ、成熟期を迎えている。
本圃場では作柄は良好。収穫作業は 7 月を予定。



< 中国 > 2023/24 年度の生産量・消費量は史上最高、輸入量増加の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、大豆の増産政策により作付けが大豆にシフトすることから、とうもろこしの作付面積がわずかに減少するものの、主産地における単収の増加が見込まれることから、前年度より 1.0%増の 280.0 百万トンで史上最高の見込み。

5 月上旬、春とうもろこしは、主産地の黒竜江省等で播種期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、国際的なとうもろこし価格の低下と国内の経済成長を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.7%増の 304.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、国内の飼料用需要の増加を背景として、国際価格が国内価格より低下したことにより、米国、ウクライナに加え、前年から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されており、前年度より 27.8%増の 23.0 百万トンの見込み。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 3 月号」によると、2023 年 1 月・2 月計の輸入量は、前年同期より 13.7%増の 532 万 8 千トン。主な輸入先は、米国（輸入量の 44.1%）、ブラジル（同 27.7%）、アルゼンチン（同 22.1%）である。

同月報によれば、3 月の国内価格は、2,940 元/トンと前月（2,980 元/トン）から下落した。気温が徐々に上昇し、保管が難しくなるため、農家の売却意欲が高まっており、主要生産地の農家から市場に出回った。一方、飼料・加工メーカーは買付けに消極的であり、とうもろこし市場は依然として低迷している。また、3 月の輸入価格は、2,660 元/トンと前月（2,760 元/トン）から下落した。3 月の内外価格差は 2 月より拡大し、2022 年 12 月以降、国内価格が国際価格よりも高い状況が続いている。

他の飼料用需要との競合についても、2023/24 年度において、とうもろこし国際価格の下落から、2022/23 年度に生じた小麦、飼料用碎米への輸入代替は、相対的に低価格なとうもろこし輸入へと回帰すると推測される。

とうもろこし—中国

(単位: 百万トン)

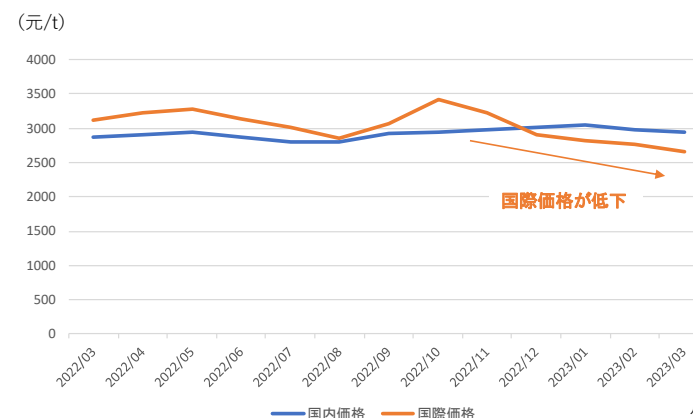
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	272.6	277.2	280.0 (276.2)	—	1.0	
消 費 量	291.0	299.0	304.0 (310.3)	—	1.7	
うち飼料用	209.0	218.0	223.0 (210.0)	—	2.3	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	—	—	
輸 入 量	21.9	18.0	23.0 (29.0)	—	27.8	
期末在庫量	209.1	205.3	204.3 (170.8)	—	▲ 0.5	
期末在庫率	71.9%	68.7%	67.2% (55.0%)	—	▲ 1.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	43.00 (43.00)	—	▲ 0.2	
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.51 (6.42)	—	1.1	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

図: 中国におけるとうもろこし価格の内外価格差

(2022 年 3 月～2023 年 3 月)

(国際価格の低落により、国内価格が高い状況)



資料: 農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 3 月号」より

農林水産省にて作成

< ウクライナ > ロシアの侵攻により、2023/24 年度の生産量は前年度比 18.5%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、ロシアによる侵攻の影響で収穫面積及び単収がいずれも減少することから、前年度より 18.5%減の 22.0 百万トンで 2012 年以来最低の水準となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、5 月 18 日時点での 2023/24 年度の播種済面積は 3.3 百万ヘクタールで、播種期の終盤を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、生産量の減少による供給減から、前年度より 11.3%減の 5.5 百万トンの見込み。背景には戦争の影響で畜産物生産が減少することによる飼料用需要の減退もあると推測される。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量の減少及び主要輸出先の EU における増産から、前年度より 35.3%減の 16.5 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、2022 年 8 月～2023 年 4 月の輸出量は 1,991 万トン。輸出先国は、中国、ルーマニア、スペイン、イタリア、ハンガリー、ポーランドの順となっている。上記の輸送手段としては、黒海港湾からの輸出が約 6 割、黒海港湾以外の港湾からの輸出が約 1 割、鉄道・トラック等が約 3 割となっている。

黒海穀物イニシアチブ「国連共同調整センター」によれば、輸出が再開された前年 8 月 1 日～4 月 30 日の黒海港湾からのとうもろこし輸出量は 1,477 万トンであり、輸出先国は、中国（461 万トン）、スペイン（271 万トン）、イタリア（140 万トン）、オランダ（119 万トン）の順となっている。

なお、国連、ウクライナ、ロシア、トルコの 4 者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意は、2023 年 3 月 19 日に 60 日間の再延長がされ、その期限となる 5 月 17 日に再び 60 日間の延長（7 月中旬まで）が合意された。

また、ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題について、欧州委員会は、4 月 28 日、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアの東欧 5 か国に、暫定的に 5 月 2 日から 6 月 5 日までウクライナ産とうもろこし等の輸入規制を設定した。

とうもろこしーウクライナ

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	42.1	27.0	22.0 (21.0)	—	▲ 18.5
消費量	9.9	6.2	5.5 (7.6)	—	▲ 11.3
うち飼料用	8.7	5.0	4.5 (4.8)	—	▲ 10.0
輸 出 量	27.0	25.5	16.5 (15.0)	—	▲ 35.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	—	—
期末在庫量	6.1	1.4	1.4 (1.3)	—	—
期末在庫率	16.5%	4.4%	6.3% (5.7%)	—	1.9

(参考)

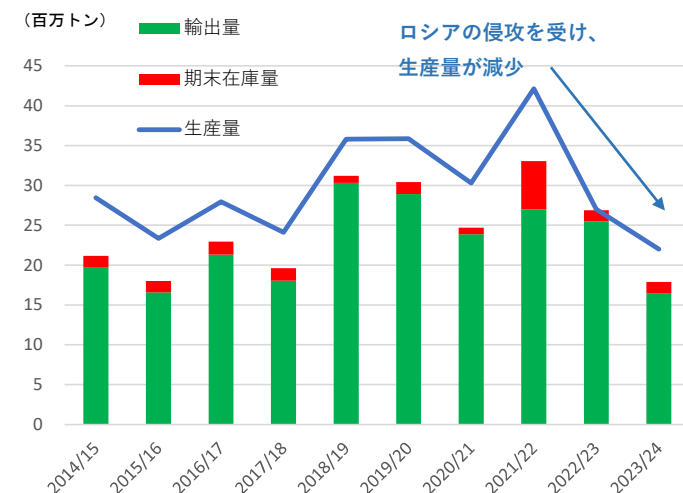
収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	3.40 (3.20)	—	▲ 16.0
単収(t/ha)	7.68	6.67	6.47 (6.56)	—	▲ 3.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 May 2023)

IGC「Grain Market Report」(20 April 2023)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

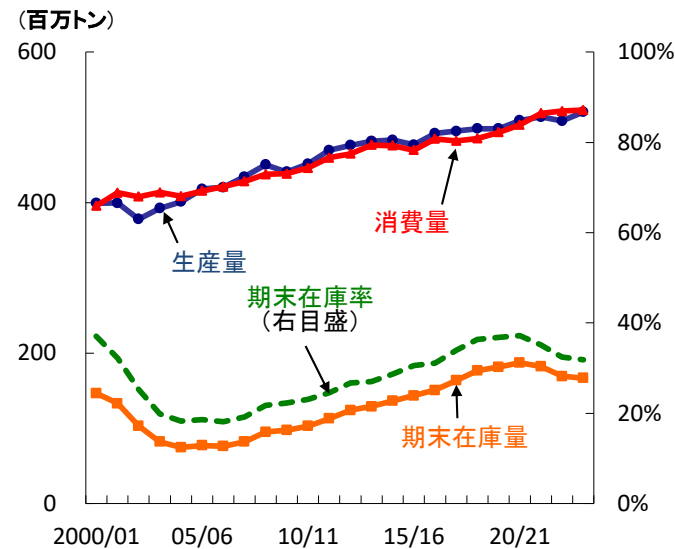


資料：USDA「PS&D」(2023.5.12)をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>		2023/24 年度	
生産量	前年度比 ↑	前月比	—
・パキスタン、中国、米国、インド等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。			
消費量	前年度比 ↑	前月比	—
・中国等で減少も、インド等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。			
輸出量	前年度比 ↑	前月比	—
・タイ、ベトナム等で減少も、パキスタン、米国等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。			
期末在庫量	前年度比 ↓	前月比	—



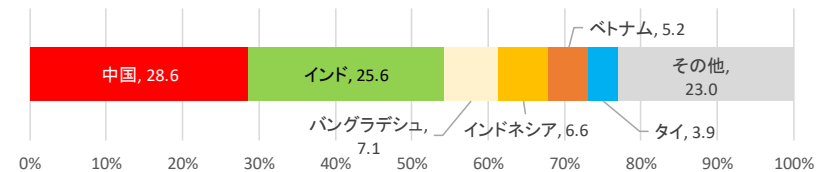
資料：USDA「PS&D」（2023.5.12）をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

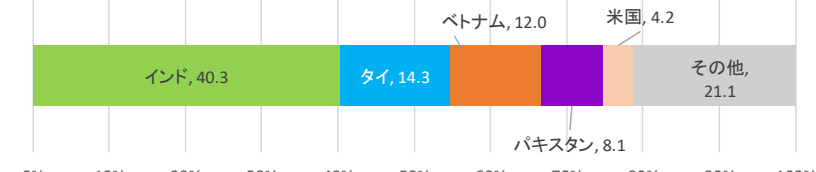
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	513.9	508.4	520.5	—	2.4
消費量	518.8	521.5	523.0	—	0.3
輸出量	56.9	55.5	55.8	—	0.6
輸入量	54.5	53.9	53.1	—	▲ 1.4
期末在庫量	182.3	169.2	166.7	—	▲ 1.5
期末在庫率	35.1%	32.4%	31.9%	—	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 May, 2023）

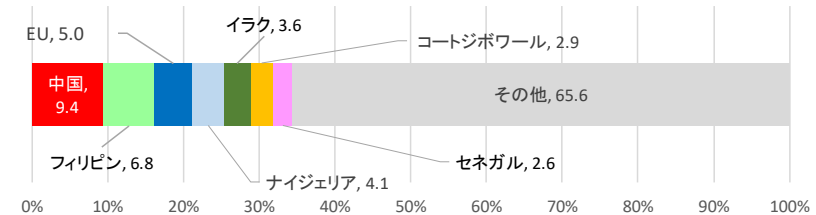
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(520.5百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(55.8百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(53.1百万トン) (単位：%)



（２）国別のコメの需給動向

＜ 米国 ＞ 2023/24 年度の生産量は増加、消費量は史上最高の見込み

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）によれば、2023/24 年度の生産量は、長粒種、中・短粒種とも、収穫面積の増加（対前年度比 17.0%）及び単収の増加（対前年度比 2.7%）から、対前年度比 20.2%増の 6.1 百万トンとなる見込み。深刻な干ばつで 2 年連続作付面積が減少していた中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州では、灌漑用水の供給が平年を上回ると見込れることや、史上最高の価格水準等から、作付面積が飛躍的に増加する見込み（前年度比 49.1%増）。また長粒種の産地でも、高水準の価格等から作付面積が増加する見込み。

同「Crop Progress」（2023.5.15）によれば、主要生産 6 州の 5 月 14 日時点の作付進捗率は 83%と、前年同期（78%）、過去 5 年平均（76%）よりも進展している。発芽率は 65%と、前年同期（51%）、過去 5 年平均（54%）より高い。作柄評価はやや良から良が 70%と、前年同期（72%）を下回っている。なお、カリフォルニア州では作付けが 4 月末に開始されたが、播種開始時期の豪雨やその後の低温のため、作付進捗率は 40%と、前年同期（79%）、過去 5 年平均（62%）よりも遅れている。また、発芽率も 2 %と、前年同期（17%）、過去 5 年平均（13%）よりも遅れている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、生産量の増加見通しから、対前年度比 2.1%増の 4.9 百万トンと、史上最高となる見込み。背景には、今後、増産による国内取引価格の下落があると推測される。

2023/24 年度の輸入量は、生産量増加に伴う砕米及び中・短粒米の輸入減少から、対前年度比 0.8%減の 1.2 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、生産量増加と米国産価格の低下から、対前年度比 21.1%増の 2.4 百万トンの見込み。ただ長粒種は、南米産との価格競争から前年度比 8.3%と、輸出増加は一定程度に収まる見込み。

USDA「Rice Outlook」（2023.5.16）によれば、5 月 9 日までの週のイラク向け長粒種（2 等、砕米 4 % 混入）の価格は 760 ドル/トンと、本年 1 月末以降、2008 年 10 月初旬（772 ドル/トン）以来の高値となっている（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。また中粒種（地中海向けカリフォルニア米（1 等、砕米 4 %混入））の価格は 1,650 ドル/トンと、前年 12 月末以降、史上最高となっている。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

（単位：百万精米トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 8 月～24年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	5.1	6.1	—	20.2
消 費 量	4.8	4.8	4.9	—	2.1
輸 出 量	2.6	1.9	2.4	—	21.1
輸 入 量	1.2	1.3	1.2	—	▲ 0.8
期末在庫量	1.3	0.9	1.0	—	12.5
期末在庫率	17.0%	13.1%	13.7%	—	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.01	0.88	1.03	—	17.0
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.50	—	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 May 2023）

写真：アーカンソー州の生育状況の風景（5月 10 日撮影）



< インド > 2023/24 年度の生産量・消費量とも史上最高の見込み

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、史上最高であった昨年度と同水準の収穫面積、及び史上最高の単収（対前年度比 1.0%増）が見込まれることから、対前年度比 0.8%増の 133.0 百万トンと、8 年連続で史上最高となる見込み。

インド農業農民福祉省によると、カリフ米作付済み面積は、5 月 19 日時点で 2.8 百万ヘクタールと、前年同期（3.0 百万ヘクタール）に比べ 0.2 百万ヘクタール少ない状況。

USDA によると、主に 4 月後半の豪雨により、今後作付けされるカリフ米向けの灌漑用水が十分に供給されるとともに、猛暑が緩和されラビ米の収穫作業が進展した。2022/23 年度のラビ米の収穫は 4 月でほぼ終了した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前年度に引き続き、政府の低所得世帯向け食料配給プログラム（約 8 億人が対象）向けにコメを 60 百万トン程度供給することから、対前年度比 0.4%増の 113.0 百万トンと史上最高の見込み。

2023/24 年度の輸出量は、特に中東からバスマティ米の需要が急増するなど輸出需要が堅調なこと等から、前年度と同水準の 22.5 百万トンと史上最高の見込み。

インドは、カリフ米の生産減少による国内価格高騰を抑制する観点から、前年 9 月 9 日に輸出規制を発動（碎米（100%）の輸出禁止及びバスマティ米・パーボイルド米以外のコメへの輸出税課税（20%））。ただ、引き続き他のアジア諸国と比べ価格競争力があること等から、2023/24 年度の輸出量は史上最高となる見込み。また、依然として世界の輸出量の 40%を占め、世界第 1 位の輸出国となる見込み。

なお、現地情報によると、4 月 11 日、インドは在庫水準の改善を理由に、2022 年 9 月に導入された種子用米に対する 20 パーセントの輸出税を撤廃したとのこと。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2023.5.12）によれば、インド産米（碎米 5 %混入）の 5 月 9 日までの週の輸出価格は 440 ドル/トンと、前月から 6 ドル/トン上昇したものの、アジア主要輸出国の中で依然として最低の価格水準（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

2023/24 年度の期末在庫量は、対前年度比 8.1%減の 28.5 百万トンの見込み。

※国際連合「世界人口予測 2022」報告書（2022.7.11）によれば、2023 年 7 月 1 日時点で、インドの人口は推定 14 億 2,863 万人と、年央には中国の人口（14 億 2,567 万人）を上回り世界第 1 位となる見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)

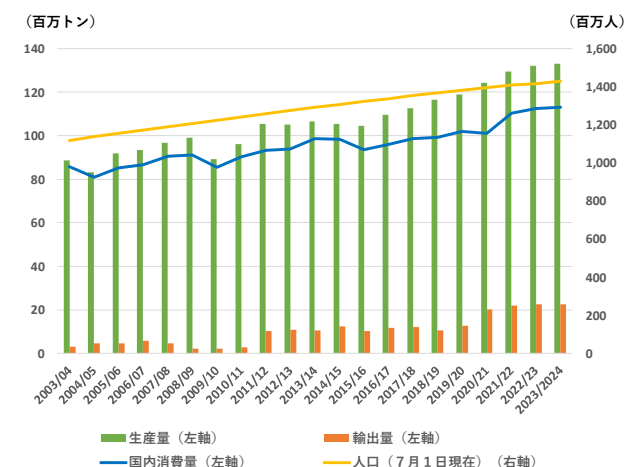
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生 産 量	129.5	132.0	133.0 (132.5)	—	0.8
消 費 量	110.5	112.5	113.0 (111.4)	—	0.4
輸 出 量	22.0	22.5	22.5 (20.5)	—	—
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	—	—
期末在庫量	34.0	31.0	28.5 (32.8)	—	▲ 8.1
期末在庫率	25.7%	23.0%	21.0% (24.9%)	—	▲ 1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	46.28	47.00	47.00 (45.75)	—	—
単収(もみt/ha)	4.20	4.21	4.25 (2.86)	—	1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)（単収は精米t/ha）

図：インドのコメ生産量・消費量・輸出量と人口の推移



資料：USDA 「PS&D」(2023.5.12)及び国連「World Population Prospects 2022」をもとに農林水産省にて作成。なお 2022 年、2023 年の人口は予測値。

< 中国 > 南部の早場米の生育は順調

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前年度の干ばつから回復して収穫面積が増加し、史上最高の単収が見込まれることから、前年度比 2.1%増の 149.0 百万トンと、史上最高の見込み。

3月上旬に南部で早場米の播種が始まった。早場米の作付け地は広東、海南、湖北、安徽、江西の各地区で、合計 2.48 百万ヘクタール。中央政府が穀物の増産を推進していることから、南部の各州政府は農家にコメの増産を奨励しているほか、多様な栽培方法による増産方法を模索している。なお、南東部では、3月下旬から4月上旬にかけて豪雨があり、土壌水分が改善して稲の生育が促進された。4月は南東部で平年以上の降雨があり、5月に入っても豪雨が続いているが、生殖生長期にある南部の早場米に好条件となっている。

農業農村部によれば、黒竜江省で5月中旬に播種が概ね終了したとのこと。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、とうもろこしの増産見込みによる飼料用米の消費量の減少から、前年度比 1.9%減の 152.0 百万トンの見込み。

2023/24年度の輸入量は、コメの輸入価格が上昇する一方、とうもろこしの国際価格の下落に伴い、とうもろこしに対する飼料用としての価格優位性が低下したため、飼料用碎米の輸入がわずかに減少するものの、前年度並みの 5.0 百万トンの見込み。なお、中国はこれまで、とうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の碎米をインド等から輸入してきた。

なお、USDAによれば、2022年の年間輸入量は、コメの関税割当制度が設けられてから初めて、割当数量（5.32 百万トン）を超え、6.26 百万トンとなった。

また、中国外交部によれば、4月14日にブラジル農業畜産省と中国税関総署が、コメを含むブラジル産農産物の中国への輸出に関する衛生検疫手続の協議の促進に合意した。

中国海関統計によれば、2023年3月の輸入量は 39.0 万トン（前年同期比 25.0%減）、1－3月の輸入量は 1.0 百万トン（前年同期比 39.0%減少）となった。背景には、インドの輸出規制による価格上昇の影響等があると見られる。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

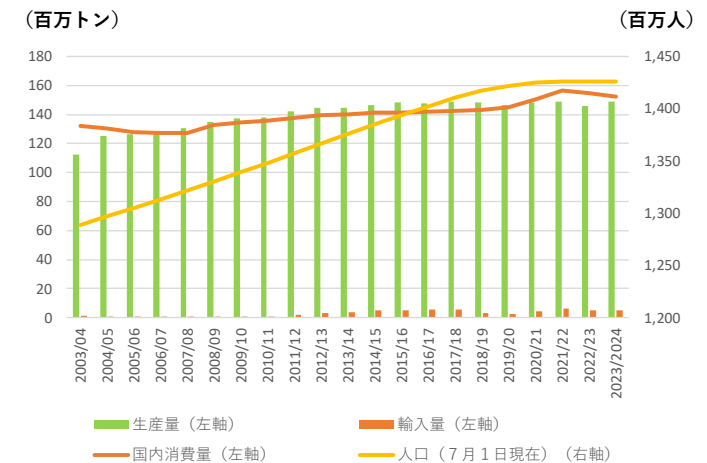
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	149.0	146.0	149.0 (148.9)	—	2.1
消費量	156.4	155.0	152.0 (150.4)	—	▲ 1.9
輸出量	2.1	2.1	2.0 (2.2)	—	▲ 4.8
輸入量	6.0	5.0	5.0 (4.4)	—	—
期末在庫量	113.0	106.9	106.9 (105.6)	—	0.0
期末在庫率	71.3%	68.1%	69.4% (69.2%)	—	1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	29.85 (30.03)	—	1.4
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.13 (4.86)	—	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 April 2023) (単収は精米t/ha)

図：中国のコメ生産量・消費量・輸入量と人口の推移



資料：USDA「PS&D」(2023.5.12)及び国連「World Population Prospects 2022」
をもとに農林水産省にて作成。なお 2022 年、2023 年の人口は予測値。

< タイ > 乾季米（全作付面積の約 2 割）はほぼ収穫済、雨季米の作付面積は減少見込み

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、コメの価格上昇による作付面積の増大、及び史上最高の単収が見込まれることから、前年度比 1.5%増の 20.5 百万トンの見込み。

2022/23 年度の実産量は、良好な天候と十分な降雨により、2021/22 年度比 1.5%増の 20.2 百万トンの見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.5）によると、乾季米の収穫はほぼ終了した。収穫面積の増加から、収量は前年度よりも 23%程度増加の見込み。降雨に恵まれ天候も良好だったことから単収も良好。雨季米は、作付けに向けて圃場を耕起しながら 5 月末に予想される降雨を待っている状況。作付面積は、肥料・殺虫剤・燃料の各費用の高騰や、エルニーニョ現象の発生懸念による降雨不足から減少の見込み。こうした状況を受け、収益が高く乾燥に強いキャッサバ等へ作付転換している農家もいる。

なお、現地情報によると、タイ国家水資源事務局は、今後の水不足に備えて、ダムの貯水量を確保するため、一期作以降はより少ない水で栽培できる作物に切り替える減反を農家に提案した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、インドネシアへの輸出見込みが予想を下回ることから、対前年度比 5.9%減の 8.0 百万トンの見込み。ただ、依然としてインドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。

2022/23 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2021/22 年度比 10.4%増の 8.5 百万トンの見込み。

タイ米輸出業者協会によれば、2023 年 1～3 月の輸出量は、前年同期の 174.2 万トンから 32.2 万トン増加し、206.4 万トンとなった。検疫問題で 7 年間停止していたタイ産米の輸入を 2022 年に再開したイラクが 33.8 万トン（前年同期 29.3 万トン）、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の 0.3 万トンから急増して 27.0 万トンとなった。そのほか、南アフリカが 17.0 万トン（同 12.0 万トン）と増加しているが、米国が 17.8 万トン（同 23.5 万トン）と減少。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.5.12）によれば、5 月 9 日までの週のタイ産米（長粒、2 等精米）の輸出価格は、インドネシアからの需要増大により、前月から 16 ドル上昇し、515 ドル/トンとなった（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

コメータイ

夏の雨季作と冬の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

（単位：百万精米トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（24年1月～24年12月）		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	19.9	20.2	20.5 (20.7)	—	1.5
消費量	12.8	12.8	12.8 (12.4)	—	—
輸出量	7.7	8.5	8.0 (8.3)	—	▲ 5.9
輸入量	0.1	0.2	0.2 (0.3)	—	—
期末在庫量	3.5	2.6	2.4 (6.7)	—	▲ 5.9
期末在庫率	17.1%	12.0%	11.5% (32.3%)	—	▲ 0.4
（参考）					
収穫面積(百万ha)	10.70	10.85	10.90 (10.85)	—	0.5
単収(もみt/ha)	2.81	2.82	2.85 (1.86)	—	1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 April 2023)（単収は精米t/ha）

表：タイの国別輸出量

（単位：万トン）

国名	2022 年 1～3 月	2023 年 1～3 月	増減
1 イラク	29.3	33.8	4.5
2 インドネシア	0.3	27.0	26.7
3 米国	23.5	17.8	▲ 5.7
4 南アフリカ	12.0	17.0	5.0
5 セネガル	4.8	12.1	7.3
6 バングラデシュ	0.0	11.5	11.5
7 中国	21.6	10.8	▲ 10.8
8 日本	8.2	9.4	1.2
9 カメルーン	1.3	7.0	5.7
10 モザンビーク	3.5	5.0	1.5
計	174.2	206.4	32.2

資料：タイ米輸出業者協会（2023.5）

< ベトナム > 冬春作の単収は増加見込み。輸出価格は2021年5月以来の高水準

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、収穫面積はわずかに減少も、単収は過去最高だった前年度の水準を維持する見込みから、前年度並みの27.0百万トンの見込み。長期的には肥料高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、収穫面積は減少傾向にある。

2022/23年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、2021/22年度比0.7%増の27.0百万トンの見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.5）によると、北部では冬春作が幼穂育成期から穂ばらみ期にある。十分な灌漑用水と良好な天候から、単収増加が見込まれる。南部では冬春作は収穫期終盤にある。作付済み面積（1.88百万ヘクタール）に対し、収穫済み面積は現時点で1.57百万ヘクタール（進捗率83.5%）。良好な天候と塩害の減少から、単収は7.12もみトン/ヘクタールと、前年度より1.6%高くなっている。他方、南部のうちメコンデルタ地域では、安定的な天候条件の下、夏秋作（雨季米）の播種がピークを迎えており、播種済み面積は0.51百万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、2023年にインドネシアへの備蓄向け輸出が終了すること等から、前年度比5.6%減の6.7百万トンの見込み。

2022/23年度の輸出量は、2021/22年度並みの7.1百万トンの見込み。

ベトナム関税総局によれば、2023年1～4月の輸出量は289.7万トンと、前年同期（205.8万トン）に比べ40.8%増加した。上位からフィリピン（128.7万トン）、中国（50.7万トン）、インドネシア（30.6万トン）、マレーシア（16.0万トン）となっている。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.5.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の5月9日までの週の価格は、インドネシアやマレーシア等からの需要が増加したことから、前月の価格から15ドル/トン上昇して500ドル/トンと、2021年5月以来の高値となった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

（単位：百万精米トン）

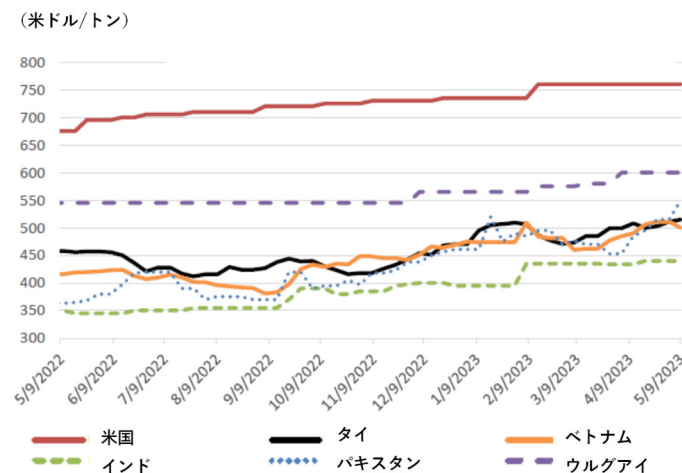
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.8	27.0	27.0 (28.3)	—	—
消 費 量	21.5	21.5	21.6 (22.2)	—	0.5
輸 出 量	7.1	7.1	6.7 (7.2)	—	▲ 5.6
輸 入 量	1.5	1.1	1.3 (1.1)	—	18.2
期末在庫量	2.4	1.9	1.9 (3.0)	—	—
期末在庫率	8.2%	6.5%	6.5% (10.2%)	—	0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.19	7.17	7.16 (7.10)	—	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.96	6.03	6.03 (3.90)	—	—

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 April 2023)（単収は精米t/ha）

図：長粒種のFOB価格の推移



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.5.12）より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

・アルゼンチン、ブラジル、米国等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

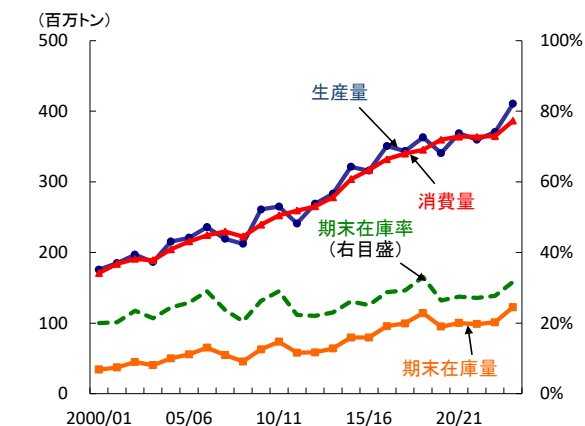
消費量 前年度比  前月比 

・アルゼンチン、中国、ブラジル、米国等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比  前月比 

・米国等で減少も、ブラジル等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」(2023. 5. 12)をもとに農林水産省で作成

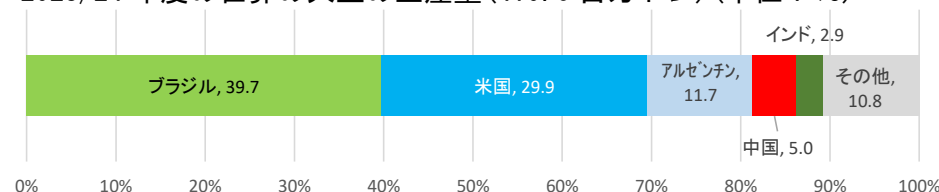
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

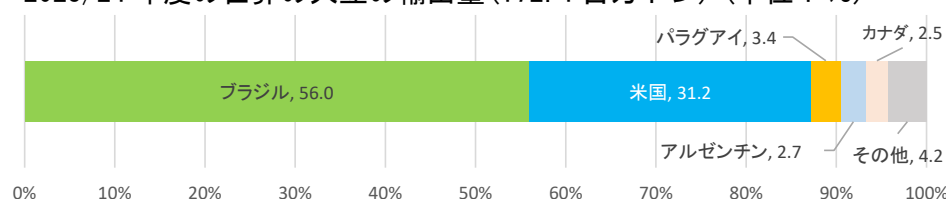
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	359.9	370.4	410.6	—	10.8
消費量	363.8	364.9	386.5	—	5.9
うち搾油用	314.2	313.3	332.3	—	6.1
輸出货量	154.0	168.4	172.4	—	2.4
輸入量	156.6	165.2	169.8	—	2.8
期末在庫量	98.7	101.0	122.5	—	21.2
期末在庫率	27.1%	27.7%	31.7%	—	4.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 May 2023)

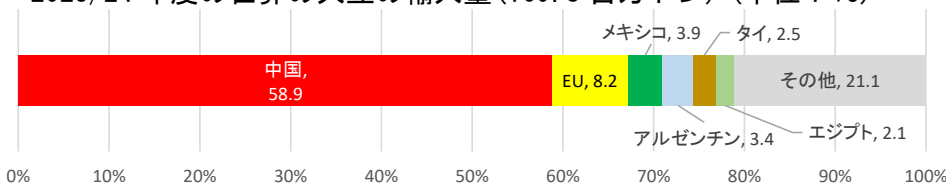
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量 (410.6 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出货量 (172.4 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量 (169.8 百万トン) (単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2023/24 年度の生産量は 122.7 百万トンで史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、単収の増加等により前年度より 5.5%増の 122.7 百万トンの見通し。

USDA「Crop Progress」(2023.5.15)によれば、5月14日現在で作付け進捗率は 49%と、適度な降雨があり、前年度同期(27%)、過去5年平均(36%)を上回っている。発芽率も 20%と、前年度同期(8%)、過去5年平均(11%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから前年度より 4.1%増の 66.3 百万トンで史上最高の見込み。なお、背景としては、環境志向に伴い、バイオ燃料向けの搾油工場の新設による需要増が見込まれていることがあるとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量が増加し価格の低下が見込まれるものの、史上最高の豊作見通しとなったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることから、前年度より 2.0%減の 53.8 百万トンの見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、生産量が増加し、南米産との激しい競争により輸出量が減少することから、前年度より 55.5%増の 9.1 百万トンとなる見込み。結果として期末在庫率は 7.6%で、過去4年で最も高い水準となる見込み。

USDA によれば、2023 年輸出量(2023 年1月1日～5月4日)は、18.5 百万トンであり、内訳は中国(11.0 百万トン)、メキシコ(1.7 百万トン)、ドイツ(1.3 百万トン)の順。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」(2023.5.12)によれば、大豆輸出価格は、4月中旬以降、ブラジルとアルゼンチンの 2023 年産の収穫が進展することに伴い、全体的に低下し続けている。

なお、米国の輸出価格は、前年 12 月以降、ブラジル産に比べ割高で推移しており、2 月以降、ブラジル産の収穫期を迎え価格差が広がった(右図参照)。

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	121.5	116.4	122.7	—	5.5
消費量	62.8	63.7	66.3	—	4.1
うち搾油用	60.0	60.4	62.9	—	4.1
輸出量	58.7	54.8	53.8	—	▲ 2.0
輸入量	0.4	0.5	0.5	—	—
期末在庫量	7.5	5.9	9.1	—	55.5
期末在庫率	6.1%	4.9%	7.6%	—	2.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.93	34.94	35.09	—	0.4
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.50	—	5.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2023/24 年度の生産量・輸出量は、史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の生産量は、作付面積が史上最大となる見通しから、前年度より 5.2%増の 163.0 百万トンと史上最高の見込み。

また、ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2023.5.11）によれば、2022/23 年度の生産量は、南部の州を中心に深刻な高温・乾燥の影響を受けた 2021/22 年度より 23.3%増の 154.8 百万トンに回復する見込み。

USDA「World Agricultural Production」（2023.5.12）によれば、5 月初期時点で、収穫進捗率は 75%で、前年度（81%）を下回っている。中西部主産地のマツト・グロソ州では収穫が完了。南部のパラナ州では 5 月 8 日現在、収穫は完了。

CONAB 農業モニタリング月報（2023.4.27）によれば、干ばつの被害を受けた南部のリオ・グランデ・ド・スール州では、4 月 1 日から 21 日にかけての降水量が少なかったため、収穫期を迎える大豆の圃場にとって良好な条件となった。

リオ・グランデ・ド・スール州では、5 月 11 日現在、収穫進捗率は 87%に達している。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、搾油用需要が増加することから、前年度より 4.7%増の 59.7 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、2 年連続で生産量が史上最高を更新し、価格競争力が高まる見込みから、前年度より 3.8%増の 96.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1 月～4 月の輸出量は 33.6 百万トンで、前年同期（32.4 百万トン）に比べ 3.7%増となっている。輸出先の内訳は、1 位が中国（24.2 百万トン）、2 位がスペイン（1.1 百万トン）、3 位がアルゼンチン（0.9 百万トン）となっている。豊作見通しの 2022/23 年産の収穫が進んでおり、4 月以降、輸出量が増加する見込み。

大豆ーブラジル

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	130.5	155.0	163.0 (159.0)	—	5.2	
消 費 量	54.0	57.0	59.7 (58.8)	—	4.7	
うち搾油用	50.7	53.3	55.8 (56.0)	—	4.7	
輸 出 量	79.1	93.0	96.5 (97.7)	—	3.8	
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.2)	—	▲ 10.0	
期末在庫量	27.6	33.1	40.4 (8.1)	—	21.9	
期末在庫率	20.7%	22.1%	25.8% (5.2%)	—	3.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.60	43.70	45.60 (44.75)	—	4.3	
単収(t/ha)	3.14	3.55	3.57 (3.55)	—	0.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 May 2023）
IGC「Grain Market Report」（20 April 2023）

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2022/23年度の大豆の作付けは、2022年9月以降、順次開始。
2023年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2022/23年度	2022年												2023年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし																					
冬とうもろこし																					
大豆																					

資料：CONAB穀物レポート（2023.5.11）

< アルゼンチン > 2023/24 年度の生産量は、前年度より回復の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の生産量は、高温・乾燥の影響を大きく受けた前年度より 77.8%増の 48.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2023.5.18）によれば、2022/23 年度の大豆の収穫進捗率は 69.2%。生産量は、高温・乾燥による遅植え大豆の収穫面積の大幅な減少から下方修正され、21.0 百万トン（過去 5 年平均（45.0 百万トン）より 53%減）の見通し。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、生産量の増加に伴い搾油量が回復することから、前年度より 14.4%増の 43.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 39.4%増の 4.6 百万トンの見込み。アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆油及び大豆粕については、世界第 1 位の輸出国である。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、国内生産量の増加に伴い、前年度より 31.3%減の 5.7 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2%引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻っている。

なお、アルゼンチン政府は、今般の干ばつ対策として、農業関係者に対し、融資や減税、割引手形を発行するなどの救済施策を公表した。さらに、4 月 10 日には、各種税の支払い猶予措置などの救済施策を公表した。また、外貨獲得のため、4 月 10 日から 5 月 31 日までの間の 45 日間を超えない範囲で、大豆優遇為替レート（1 ドル＝300 ペソ）を適用する。

「OIL WORLD Monthly」（2023.4.28）によれば、大豆優遇レートに基づく大豆の販売は、ここまで予想を大きく下回っている状況にある。急速なインフレーションと更なる通貨切下げの噂から、多くの農業者は売りを控えている。

大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	43.9	27.0	48.0 (43.5)	—	77.8	
消 費 量	46.0	37.8	43.2 (42.3)	—	14.4	
うち搾油用	38.8	31.5	36.5 (38.5)	—	15.9	
輸 出 量	2.9	3.3	4.6 (4.8)	—	39.4	
輸 入 量	3.8	8.3	5.7 (5.3)	—	▲ 31.3	
期末在庫量	23.9	18.2	24.1 (3.7)	—	32.5	
期末在庫率	48.9%	44.2%	50.3% (8.0%)	—	6.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	15.90	15.00	16.40 (16.10)	—	9.3	
単収(t/ha)	2.76	1.80	2.93 (2.70)	—	62.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

写真：北部サンタフェ州の早植え大豆の収穫風景 (5月1日撮影)

夏季の高温・乾燥の影響で草丈が小さく、莢の数が少ない。
収穫する量が少ないため、急速に収穫作業が進んでいる。



< 中国 > 2023/24 年度の生産量・消費量は史上最高、輸入量増加の見通し

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、単収が減少するものの、収穫面積が増加することから、前年度より 1.1%増の 20.5 百万トンで史上最高の見込み。

2 月 13 日に公表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央 1 号文件には、引き続き大豆の作付け拡大の取組等について記載された。

USDA 「Grain and Feed Annual」(2023.4.6) によれば、政府は、大豆ととうもろこしの間作を奨励しており、2022/23 年度に間作は 100 万ヘクタール増加した。大豆主産地の東北地区の黒竜江省等においては、補助金を考慮しても、とうもろこしの収益が高い見込みであるが、国有農場を中心に大豆の作付けを増加させると推測される。

なお、5 月、主産地の東北地区の黒竜江省等では播種期を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、国内の大豆粕需要と食料需要が増加することにより、前年度より 4.7%増の 118.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、需要増から前年度より 2.0%増の 100.0 百万トンの見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前年度より 6.7%増の 38.2 百万トンで史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前年度から 0.6 ポイント増加し、32.3%となる見込み。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 3 月号」によれば、2023 年 1 月・2 月計の輸入量は、前年同期より 16.0%増の 1,617 万トン。主な輸入元は、米国（総輸入量の 71.6%）、ブラジル（同 13.9%）、アルゼンチン（同 8.4%）である。

3 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、前月並みの 6,040 元/トンとなった。気温の上昇で貯蔵が難しくなったため、農家の売却意欲が高まったものの、国産の需要は低調であり、国内の大豆の売買は少ない状況にある。また、3 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、5,400 元/トンと前月並みとなった。

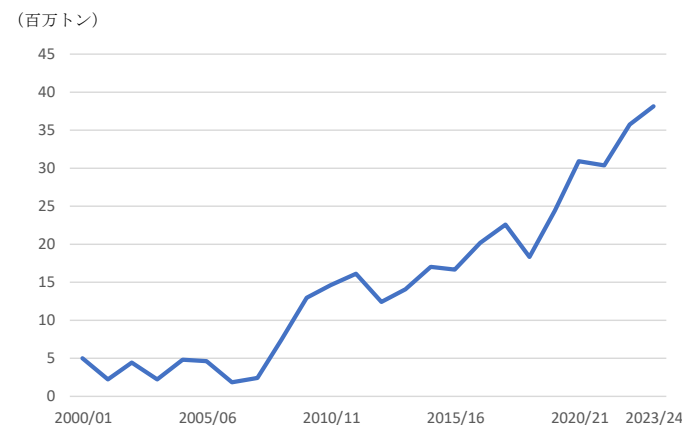
大豆—中国

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	16.4	20.3	20.5 (19.8)	—	1.1	
消費量	108.4	112.7	118.0 (118.2)	—	4.7	
うち搾油用	87.9	91.0	95.0 (98.5)	—	4.4	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	—	—	
輸 入 量	91.6	98.0	100.0 (99.5)	—	2.0	
期末在庫量	30.3	35.8	38.2 (31.2)	—	6.7	
期末在庫率	27.9%	31.7%	32.3% (26.4%)	—	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.45 (9.95)	—	2.1	
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.96 (1.98)	—	▲ 1.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 April 2023)

図：中国における大豆の期末在庫量の推移
(2023/24 年度は 38.2 百万トンで史上最高の見込み)



出典：米国農務省「PS&D」(2023.5)を農林水産省で加工

< カナダ > 2023/24 年度の作付意向面積は前年度比 4.5%増の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前年度から 0.7%減の 6.5 百万トンの見込み。

カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアがある。オンタリオ州に隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されている。

カナダ統計局「Principal field crop areas, March 2023」(2023.4.26)によれば、2023/24 年度の作付意向面積は、前年度から 4.5%増の 223 万ヘクタールの見込み。特に、生産量が2位のマニトバ州で大きく増加するとみられている。なお、本調査は例年と異なり前年 12 月時点で生産者に聞き取りを行っており、その後の動向については留意が必要である。

カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2023.5.23)によれば、単収は、平年並みの天候に恵まれれば、3.0 トン/ヘクタールとなり、生産量は前年から 2.4%増の 6.7 百万トンが見込まれている

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前年度並みの 2.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前年度より 2.2%減の 4.4 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会 (Canadian Grain Commission) によれば、2022/23 年度 (2022 年 8 月～2023 年 7 月) のうち、2022 年 8 月～2023 年 3 月の輸出量は 305.6 万トンとなり、国別では、中国向け (128.8 万トン) が 42%を占め、続いて、イラン (44.8 万トン)、アルジェリア (36.5 万トン)、イタリア (25.1 万トン) の順となっている。2023 年 3 月の輸出量は 6.4 万トンで、アルジェリア向けが 4.4 万トン、ベルギー向けが 2.0 万トンである。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前年度並みの 0.5 百万トンの見込みであり、期末在庫率は、前年度より 0.5 ポイント増の 6.9%の見込み。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

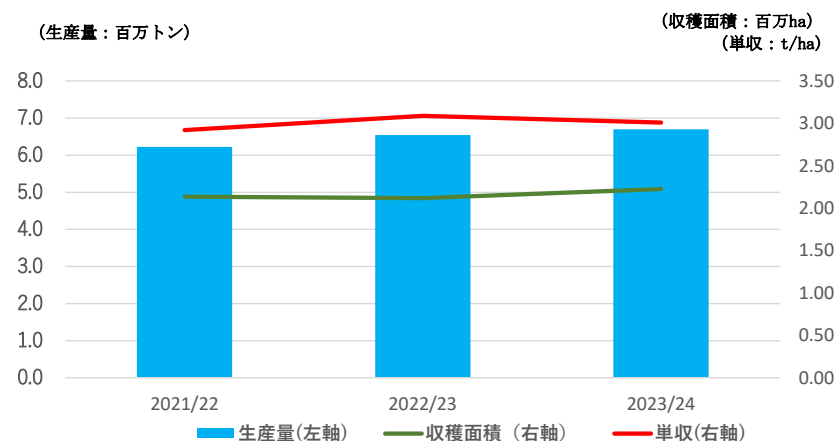
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年8月～24年7月）		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.2	6.5	6.5 (6.7)	—	▲ 0.7
消 費 量	2.3	2.6	2.6 (2.5)	—	—
うち搾油用	1.8	2.0	2.0 (1.9)	—	—
輸 出 量	4.3	4.5	4.4 (4.7)	—	▲ 2.2
輸 入 量	0.5	0.6	0.5 (0.5)	—	▲ 9.1
期末在庫量	0.4	0.5	0.5 (0.4)	—	6.7
期末在庫率	6.5%	6.4%	6.9% (4.9%)	—	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.08	2.12	2.20 (2.23)	—	3.8
単収(t/ha)	2.99	3.09	2.95 (3.01)	—	▲ 4.5

資料：USDA 「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 May 2023)

AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(23 May 2023)

図：カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(2023.5.23) をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2023/24年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	23年6月～24年5月	23年9月～24年8月	23年8月～24年7月	23年9月～24年8月
カナダ	23年8月～24年7月			23年8月～24年7月
豪州	23年10月～24年9月		24年3月～25年2月	
EU	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
中国	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月
ロシア	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		23年9月～24年8月
ウクライナ	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
ブラジル		24年3月～25年2月	24年4月～25年3月	23年10月～24年9月
アルゼンチン	23年12月～24年11月	24年3月～25年2月		23年10月～24年9月
タイ			24年1月～12月	
インド	23年4月～24年3月		23年10月～24年9月	
ベトナム			24年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2023/24年度は、米国の小麦では2023年6月～2024年5月、ブラジルのとうもろこしでは2024年3月～2025年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリクトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリクトン	大麦	
	0.025401	メトリクトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリクトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリクトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

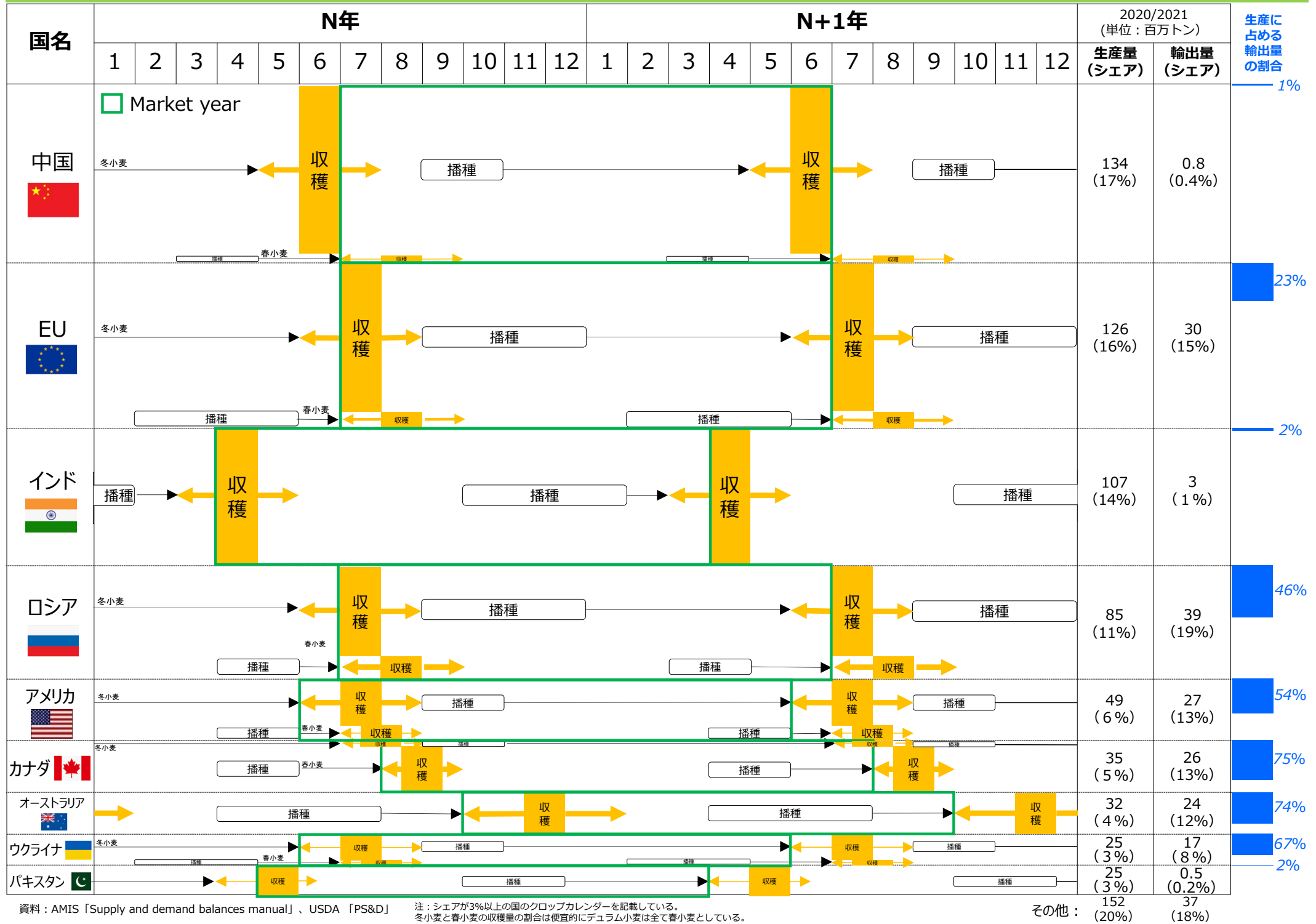
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラック)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



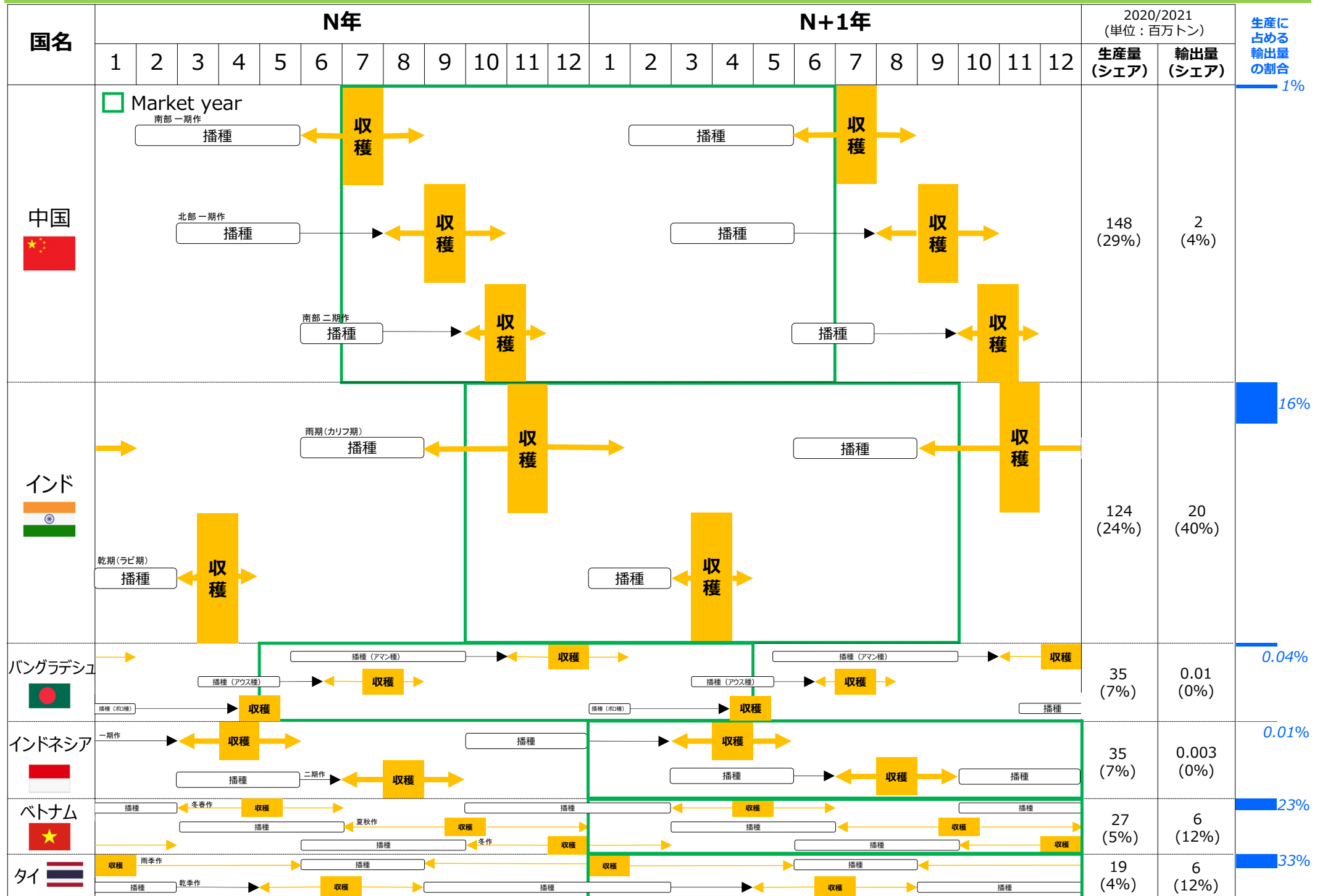
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

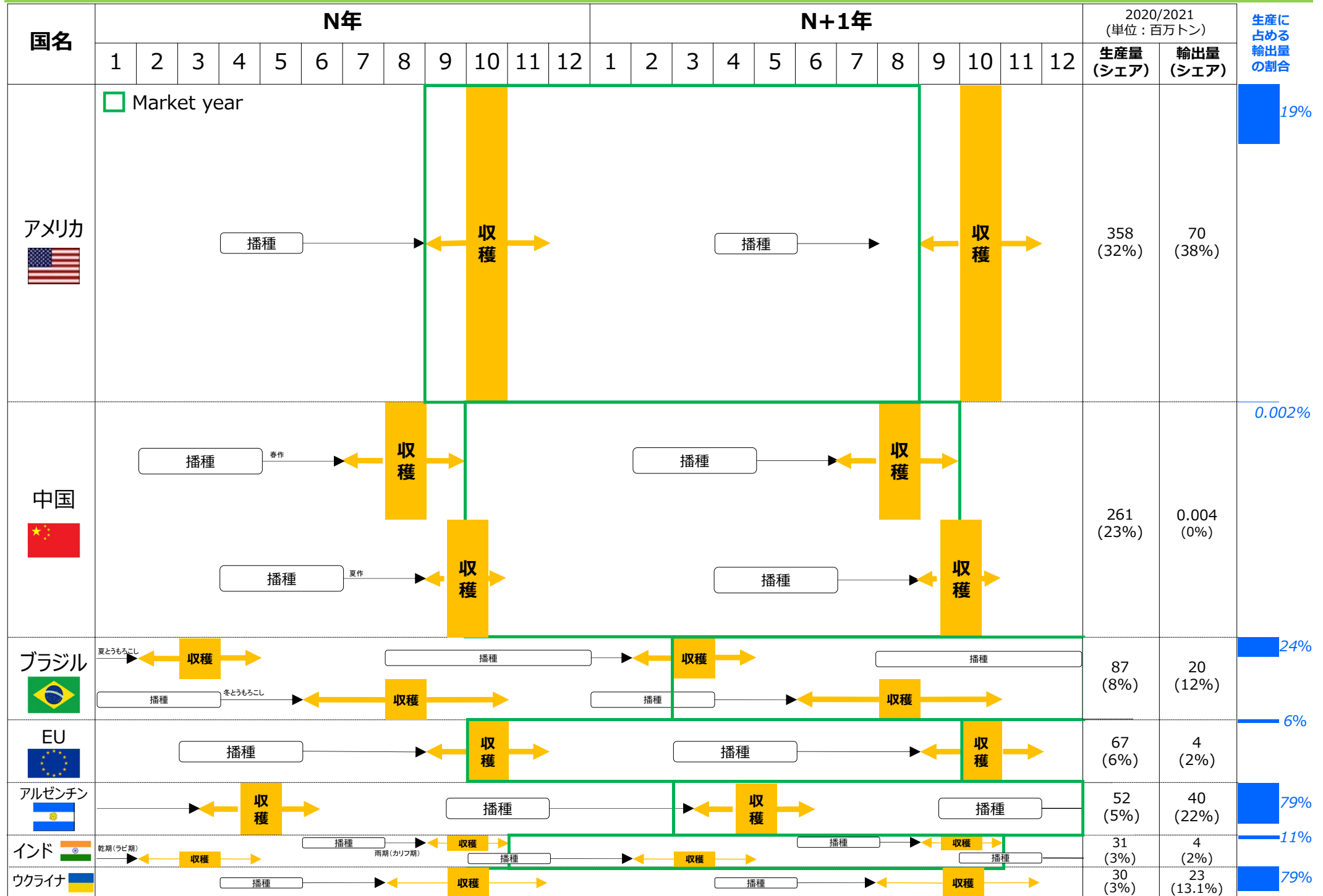
その他：

121
(24%)

16
(32%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



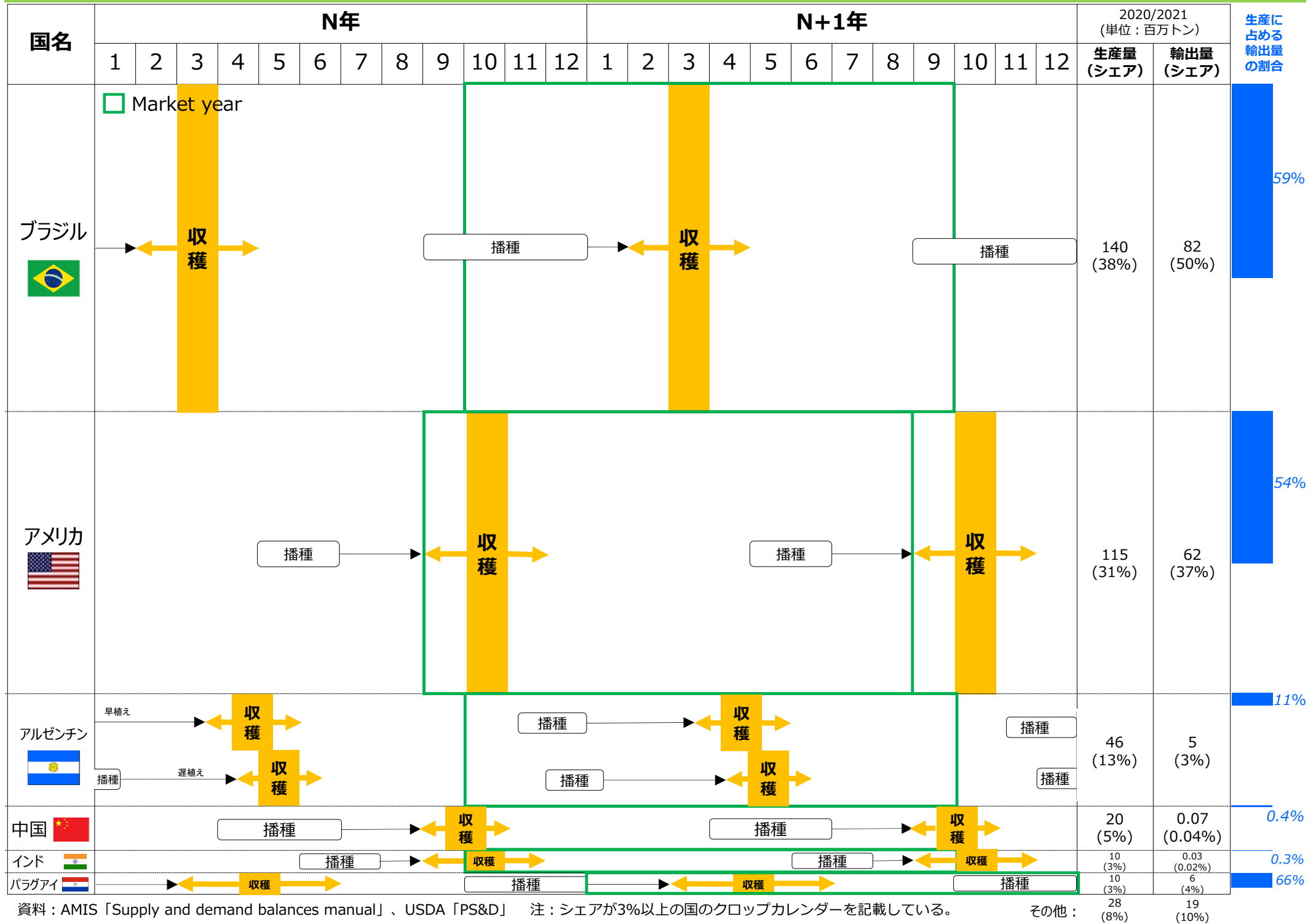
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：242
(19%)

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

